

**第71回日本実験動物学会総会
プログラム**

総合プログラム

(公社) 日本実験動物学会通常総会 (学会賞授賞式および受賞講演)
5月30日(木) 13:30 ~ 15:30 第1会場 (ロームシアター京都 1F サウスホール)

■ 功労賞

落合 敏秋 (ハムリー株式会社)
山田 靖子 (国立感染症研究所)

■ 安東・田嶋賞

理事長：三好 一郎 (東北大学)

L-1 実験動物学におけるゲノム編集および新しいモデル動物の開発研究

○真下 知士
東京大学医科学研究所

■ 奨励賞

理事長：三好 一郎 (東北大学)

L-2 アドリアマイシン腎症モデル及びTRECK法を用いたポドサイト障害モデルの開発

○渡邊 正輝
北里大学獣医学部実験動物学研究室

■ 2023 年 Experimental Animals 最優秀論文賞

Rescue of oocytes recovered from postmortem mouse ovaries
死亡マウスから回収した卵子の生存性向上に関する検討

○藤井 颯、中田 雄太、加藤 容子

Cyba and Nox2 mutant rats show different incidences of eosinophilia in the genetic background - and sex-dependent manner

Cyba と Nox2 変異ラットは遺伝的背景および性別に依存した異なる好酸球増多症の発症率を示す

○森 政之、代 健、宮原 大貴、李 瑩、宍 暁静、吉見 一人、真下 知士、樋口 京一、
松本 清司

Establishment of a human microbiome- and immune system-reconstituted dual-humanized mouse model

ヒト微生物叢と免疫系を再構築したデュアルヒト化マウスモデルの確立

○何 裕遥、伊藤 亮治、野津 量子、富山 香代、植野 昌未、小倉 智幸、高橋 利一

座長：後藤 一雄(帝京大学)

Dinh Thi Huong Tra (理化学研究所バイオリソース研究センター)

O-44 Therapeutic potential of fenugreek seed extracts on *Escherichia coli* urinary tract infection in BALB/c mice

○ Siti Nor Hikmah Abdul Rasid¹⁾, Leslie Thian Lung Than¹⁾, Pike See Cheah¹⁾, Shalini Vellasamy²⁾

¹⁾Faculty of Medicine and Health Sciences, Universiti Putra Malaysia,

²⁾Faculty of Medicine, Bioscience and Nursing, MAHSA University

O-45 Cognitive and social behaviors during abstinence from chronic toluene inhalation in adolescent rats

○ Joannes Luke B. Asis¹⁾, Johanna C. Munar²⁾, Ajina C. Carampel¹⁾, Jariel N. Bacar²⁾,
Cynthia Grace C. Gregorio³⁾, Gregory J. Quirk²⁾, Rohani Cena-Navarro²⁾

¹⁾College of Medicine, University of the Philippines Manila,

²⁾National Institute of Molecular Biology and Biotechnology, National Institutes of Health, University of the Philippines Manila,

³⁾Institute of Chemistry, University of the Philippines Diliman

O-46 Increased amyloid burden precedes glial activation in a genetic mouse model of Alzheimer's disease

○ Yuek Ling Chai^{1,2)}, Wei Wang¹⁾, Jasinda H Lee^{3,4)}, Christopher LH Chen^{1,2)},
Thiruma V Arumugam^{5,6)}, Mitchell KP Lai^{1,2)}

¹⁾Department of Pharmacology, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore,

²⁾Memory, Ageing and Cognition Centre, National University Health System, Singapore,

³⁾Department of Biochemistry, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore,

⁴⁾NUS Healthy Longevity Translational Research Programme, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore,

⁵⁾Department of Physiology, Anatomy and Microbiology, La Trobe University, Australia,

⁶⁾School of Pharmacy, Sungkyunkwan University, Republic of Korea

O-47 Evaluation of phytochemical constituents, antioxidant capacity with special reference to hypoglycaemic activity of the tuberous root of *Asparagus racemosus* on Wistar albino rats

○ Anusha Senevirathne¹⁾, Vijitha Paheerathan²⁾, Piratheepkumar Rajadurai²⁾, Sivakanesan Ramiah³⁾

¹⁾Department of Biochemistry, Faculty of Medical Sciences, University of Sri Jayewardenepura,

²⁾Faculty of Siddha Medicine, Trincomalee Campus, Eastern University,

³⁾Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, University of Peradeniya

O-48 Simultaneous protective immune responses of ducks against duck plague and fowl cholera by recombinant duck enteritis virus vector expressing *Pasteurella multocida* OmpH gene

○ Nisachon Apinda¹⁾, Venugopal Nair^{2,3,4)}, Nattawooti Sthitmatee¹⁾

¹⁾Faculty of Veterinary Medicine, Chiang Mai University,

²⁾The Pirbright Institute, ³⁾Jenner Institute, University of Oxford, ⁴⁾Department of Biology, University of Oxford

特別講演 1 5月29日(水) 13:30～14:30第1会場(ロームシアター京都 1F サウスホール)

座長：近藤 玄(京都大学)

PL-1 生殖細胞発生機構の解明とその試験管内再構成

○斎藤 通紀^{1,2,3)}

¹⁾京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点、²⁾京都大学大学院医学研究科機能微細形態学、

³⁾京都大学iPS細胞研究所

特別講演 2 5月30日(木) 15:45～16:45第1会場(ロームシアター京都 1F サウスホール)

座長：浅野 雅秀(京都大学)

PL-2 細胞膜におけるリン脂質フリッパーゼとスクランブラーゼ

○長田 重一

大阪大学免疫学フロンティア研究センター

Special Lecture 5月30日(木) 11:10～11:45 第4会場(みやこめっせ B1F 大会議室)

「Special Lecture from KALAS (Korea)」

座長：浅野 雅秀(京都大学)

SP-1 Molecular pathway of beneficial effect of exercise in Germ Free mouse

○Je Kyung Seong^{1,2)}

¹⁾College of Veterinary Medicine, Seoul National University, ²⁾Korea Mouse Phenotyping Center (KMPC)

市民公開講座 5月31日(金) 13:30～15:30第1会場(ロームシアター京都 1F サウスホール)
後援 京都市、京都文化交流コンベンションビューロー

「動物と学ぶ 動物園からアフリカのジャングルまで」

座長：浅野 雅秀(京都大学)

成瀬 智恵(京都大学)

PLC-1 京都市動物園の取組：野生と飼育下の動物の暮らしをサポートする

○山梨 裕美

京都市動物園生き物・学び・研究センター

PLC-2 日本の霊長類学略史と最期の類人猿(ボノボ)の社会

○伊谷 原一

京都大学野生動物研究センター

シンポジウム 1 日本実験動物医学会共催

5月29日(水) 9:30～11:50第2会場(ロームシアター京都 B2F ノースホール)

「ワンヘルスへの貢献～薬剤耐性の現状～」

座長：瀬戸山 健太郎(鹿児島大学)
山中 仁木(信州大学)

近年、人と動物の健康、および環境の健全性を一体として守る取り組み“One Health”が国際的に謳われている。そのような中、人の生活に影響すると考えられる産業動物や愛玩動物における薬剤耐性菌の保有状況や抗菌薬の使用について注目されている。実験動物においては、微生物学的統御技術の向上により抗菌薬の使用は最小限とされ、薬剤耐性についてあまり注視されていないのではないだろうか。そのため、実験動物における薬剤耐性菌の保有やその影響について改めて認識する必要がある。本シンポジウムでは、人や環境、産業動物、あるいは愛玩動物における薬剤耐性菌に関する総論および最新知見を提供し、実験動物における現状と共に、実験動物を介したワンヘルスへの貢献について改めて考える機会としたい。

S1-1 ヒト-動物-環境における薬剤耐性菌および耐性因子の伝播・循環動態を俯瞰する

○長野 則之

信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻

S1-2 One Healthの視点からみた生産動物由来薬剤耐性菌の実態

○白井 優

酪農学園大学獣医学群獣医学類食品衛生学ユニット

S1-3 我が国の伴侶動物における薬剤耐性菌：現状と課題

○原田 和記

鳥取大学獣医内科学研究室

シンポジウム 2 大会企画

5月29日(水) 14:45～17:15第1会場(ロームシアター京都 1F サウスホール)

「記憶のメカニズム研究の新展開」

座長：浅野 雅秀(京都大学)
後藤 明弘(京都大学)

記憶のメカニズムは人類が解明できていない重要な課題の一つである。近年の齧歯類における遺伝子改変技術、神経活動の計測技術および様々な記憶課題を用いることにより、その実態が明らかになりつつある。後藤先生には、マウスの記憶を光で消去する新たな光遺伝学を用いて明らかになった記憶の長期保存メカニズムについての講演をしていただく。野本先生には、マウスの脳内カルシウムイメージングで明らかになった、複数の感覚情報が記憶として統合されるメカニズムについて講演をしていただく。藤澤先生には、ラットの大規模細胞外神経活動記録で明らかになった、将来の移動を予測する空間ナビゲーションのメカニズムについて講演をしていただく。喜田先生には、恐怖条件付け文脈課題と受動的回避反応課題を用いて、恐怖記憶の再固定化と消去のメカニズムについて講演をしていただく。最先端の技術を用いて、記憶のメカニズムの解明に迫る最新の研究を紹介していただくシンポジウムとなっている。

S2-1 シナプス可塑性を介した記憶の長期保存メカニズムの解明

○後藤 明弘

京都大学大学院医学研究科

S2-2 Ca²⁺ イメージングで明らかにする海馬における感覚情報処理

○野本 真順^{1,2,3,4)}、村山 絵美^{1,2)}、大野 駿太郎^{1,2)}、大久保-鈴木 玲子^{1,2)}、井ノ口 馨^{1,2,4)}

¹⁾富山大学学術研究部医学系生化学講座、²⁾富山大学アイドリング脳科学研究センター、

³⁾国立研究開発法人日本医療研究開発機構、⁴⁾CREST, JST

S2-3 海馬と嗅内皮質における予測的空間情報処理

○藤澤 茂義

理化学研究所脳神経科学研究センター

S2-4 想起後の恐怖記憶制御基盤

○喜田 聡

東京大学大学院農学生命科学研究科

シンポジウム 3 日本製薬工業協会共催

5月29日(水) 14:45 ~ 17:15 第2会場(ロームシアター京都 B2F ノースホール)

「3Rsの進展に寄与する動物実験技術におけるDx」

座長：鈴木 睦(日本製薬工業協会/協和キリン株式会社)
渡部 一人(日本製薬工業協会)

Digital Transformation (Dx) は様々な領域の業務においてその利用が進み、生産性や正確性の向上、最適化に貢献し、必要不可欠なものになっている。Dxの有用性は動物を用いた研究においても同様で、ヒューマンエラーの減少によるより正確なデータを収集・共有することによる動物実験の質的向上、作業時間や人数の削減による効率化等をもたらす。また、動物の異常を速やかに検出・対応することが可能になり動物福祉の向上にも寄与することが期待される。本シンポジウムでは、動物実験実施において強く求められる3Rsに対するDxの貢献に焦点をあてて、動物実験・飼育の様々な観点からの取り組みについてご講演いただき、今後の当領域におけるDxの活用について皆さんと議論できる機会としたい。

S3-1 背景データ活用によるバーチャル対照群の毒性試験への導入

○佐藤 玄^{1,2)}

¹⁾エーザイ株式会社グローバルレギュラトリー非臨床部、²⁾日本製薬工業協会

S3-2 実験動物・非臨床研究分野におけるAI病理

○松本 泉美^{1,2)}

¹⁾住友ファーマ株式会社、

²⁾日本製薬工業協会医薬品評価委員会基礎研究部会AI病理に関するタスクフォース

S3-3 新規ウェアラブルデバイス技術を用いた一般状態観察の革新への挑戦

○栃内 亮太

東京大学大学院農学生命科学研究科獣医衛生学研究室

S3-4 適正な動物実験に関するe-learning動画教材の3Rsへの貢献

○天野 真理子

株式会社ケー・エー・シー

S3-5 DXを活用した施設運営とホームケージモニタリング

○田中 佑昌

テクニプラスト・ジャパン株式会社

「実験動物を活用したがん研究の最先端」

座長：奥村 和弘(千葉県がんセンター研究所)
成瀬 智恵(京都大学)

実験動物を用いたがん研究は長い歴史の中で重要な知見を我々にもたらしてきた。腫瘍移植モデル、発がんモデル、遺伝子操作動物モデルおよび免疫療法を含む個別化医療モデルなど、多岐にわたるアプローチがある。生きたヒトの体内でがんを発生させるモデル化は不可能であるため、ヒト以外の生物を用いた様々な動物モデルが開発されてきた。特にマウスやラットなどの実験動物は、遺伝学的、病理学的、生殖工学的な観点から今なお不可欠な動物モデルとして、がん研究において重要な位置を占めている。本シンポジウムでは、インビトロ研究だけでは明らかにできない、実験動物モデルを駆使した基礎的研究から臨床前試験に至る幅広いがん研究から得られた最新のトピックスを、5人のシンポジストによって紹介していただく。多様な研究分野の方にもご参加いただき、活発な討論を通じて、がん研究分野の最新の基礎研究の理解や新たな治療法・創薬に関する知識を深めると同時に、がん生物学における実験動物モデルの有用性について再考する機会を提供したい。

S4-1 マウスモデルを用いた老化細胞の解析

○高橋 暁子^{1,2)}

¹⁾公益財団法人がん研究会がん研究所細胞老化研究部、

²⁾NEXT-Ganken プログラムがん細胞社会成因解明プロジェクト

S4-2 正常細胞と変異細胞間に生じる細胞競合

○藤田 恭之

京都大学大学院医学研究科

S4-3 脾臓選択的ハイドロダイナミック遺伝子導入法による新規脾癌モデル動物の確立

○柴田 理、上村 顕也、田中 裕登、阿部 寛幸、五十嵐 聡、横尾 健、寺井 崇二

新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器内科学分野

S4-4 CAR-T細胞製品の非臨床評価

○藤原 由佳理

ノバルティスファーマ(株)トランスレーショナルメディスン

S4-5 遺伝性腫瘍予防へのアプローチ

○豊國 伸哉¹⁾、孔 穎怡¹⁾、羅 亜光¹⁾、今岡 達彦²⁾、真下 知士³⁾

¹⁾名古屋大学大学院医学系研究科生体反応病理学、

²⁾量子科学技術研究開発機構 QST 未来ラボ量子MRI研究グループ、

³⁾東京大学医科学研究所実験動物施設先進動物ゲノム研究分野

「免疫不全動物の感染症と微生物学的管理」

座長：田中 美有(大阪公立大学)
中村 紳一朗(麻布大学)

近年、従来の免疫不全動物に加えて、NOGマウスなどの重度免疫不全動物や、特定の免疫関連遺伝子を対象とした遺伝子改変動物が作出され、様々な実験に利用されるようになってきました。免疫不全モデル動物は易感染性であり、その飼育管理の上で、厳重な微生物学的管理は重要です。本シンポジウムでは、免疫不全動物(マウス・ラット)の基本、感染症事例、微生物モニタリングおよび飼育管理についてとりあげ、免疫不全動物の適切な微生物学的品質管理および飼育管理についての理解を深めたいと考えています。

S5-1 免疫不全動物の歴史・開発・応用

○高橋 武司

公益財団法人実中研

S5-2 免疫不全マウス飼育室で発生したニューモシスチス感染事例

○中村 紳一朗^{1,2)}、寺門 一郎²⁾、土屋 英明²⁾

¹⁾麻布大学獣医学部実験動物学研究室、²⁾滋賀医科大学動物生命科学センター

S5-3 免疫不全ラットにおけるラットポリオーマウイルス2感染症

○田中 美有^{1,2)}

¹⁾大阪公立大学獣医学部獣医病理学、²⁾京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設

S5-4 Murine Chapparovirus (MuCPV) — 免疫不全マウスに腎疾患を引き起こすウイルス

○丸山 滋

ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社

S5-5 免疫不全マウスの微生物学的品質管理

○林元 展人

公益財団法人実中研ICLASモニタリングセンター

S5-6 日本クレアにおける重度免疫不全マウスの飼育管理について

○西脇 恵

日本クレア株式会社

シンポジウム 6 動物福祉・倫理委員会企画 日本実験動物医学専門医協会共催
5月31日(金) 9:30～12:00 第1会場(ロームシアター京都 1F サウスホール)

「動物実験における3Rsの現在地：国際的なガイドラインと科学的な進歩、その運用について」

座長：武井 信貴子(イナリサーチ)
渡邊 秀徳(JTクリエイティブサービス)

シンポジウムでは、3Rsに関連する国際的なガイドラインに焦点を当て、科学技術の進歩状況や実際の運用戦略について包括的に議論します。最新の国際的ガイドラインについて、3Rsの原則(Reduction:削減、Refinement:改善、Replacement:代替)の実践に向けた今後の展開を共有し、新たなガイドラインや科学技術の進歩が実際にどのように運用されるかを理解することを目的としています。さらに、このシンポジウムを通じて、持続可能な動物実験および研究の方向性を模索し、参加者の皆様に今後の3Rsの発展に向けた新たなアイデアや戦略を検討する機会を提供することを目指しています。

S6-1 実験動物の安楽死に用いる麻酔法に関する国内外での認識と理解について

○浅野 淳
鹿児島大学共同獣医学部共同獣医学科

S6-2 経済協力開発機構(OECD)が進めるNew Approach Methodsを用いたリスクアセスメント

○平林 容子
国立医薬品食品衛生研究所

S6-3 MPS(生体模倣システム)に関する研究動向、規制当局や産業側の受入の現状について

○奈良岡 準
アステラス製薬株式会社非臨床バイオメディカルサイエンス

S6-4 医薬品毒性試験ガイドラインに見る3Rsの現在地～医薬業界の立場から

○鈴木 睦
日本製薬工業協会医薬品評価委員会基礎研究部会

シンポジウム 7 文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト共催
5月31日(金) 9:30～12:00 第2会場(ロームシアター京都 B2F ノースホール)

「新しい時代の実験動物バイオリソース」

座長：真下 知士(東京大学)
吉木 淳(理研BRC)

実験動物(特に哺乳類)は、ライフサイエンス研究の基礎・基盤となるバイオリソースとして、毒性試験や安全性試験として、さらには個別化医療の疾患モデルとして、その重要性が増加している。一方、ゲノム編集技術も急速に進展しており、ゲノム情報をはじめ付随する特性情報の充実が利用者にとっては鍵となっている。本シンポジウムでは、国内外バイオリソース拠点の代表の先生方に、こうした状況や今後の利活用の在り方の変化を幅広い参加者にわかりやすく解説していただく。

S7-1 進展するマウスリソース整備事業

○吉木 淳
理化学研究所バイオリソース研究センター

S7-2 ラットリソース整備事業のこれまでとこれから

○浅野 雅秀

京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設

S7-3 なぜサルを実験に用いるのか

○中村 克樹

京都大学ヒト行動進化研究センター

S7-4 ニワトリ・ウズラリソース：始原生殖細胞を用いた新展開

○西島 謙一、奥崎 雄也

名古屋大学大学院生命農学研究科

S7-5 モデル実験動物としてのゼブラフィッシュとNBRP

○岡本 仁

理化学研究所脳神経科学研究センター

S7-6 Seoul National University Hospital Marmoset Model Network Center (SNUH-MMNC) and Disease Model

○Byeong-Cheol Kang^{1,2)}

¹⁾Seoul National University College of Medicine,

²⁾Biomedical Research Institute, Seoul National University Hospital

シンポジウム 8 日本実験動物技術者協会共催、日本実験動物医学専門医協会後援 5月31日(金) 13:30～15:30 第2会場(ロームシアター京都 B2F ノースホール)

「動物福祉を探究する新たな視点～こんなところにも動物福祉～」

座長：橋本 直子(京都大学ヒト行動進化研究センター)

小山 公成(株式会社ケー・エー・シー)

動物実験実施者にはあまりなじみのない領域である飼育管理業務における動物福祉に焦点を当て理解を深めたい。動物実験において動物福祉は、結果の再現性を高める重要な側面であり、飼育管理の面におけるその取組みについては技術者ならびに研究者も理解を深める必要がある。本シンポジウムでは、小動物、魚類、家畜の分野で取組まれている動物福祉についての考えを紹介していただく。実験動物への福祉的配慮がどのように動物実験を支えているのか、そして今後、どのように動物福祉への貢献が進んでいくのかを、登壇者と会場の参加者と共に考えたい。このシンポジウムを通じて、異なる動物種を取扱う専門家からの考察や意見交換から、改めて動物福祉について考え、気づきや有益な知見を得るとともに、技術者、研究者が動物実験の精度向上について考える機会としたい。

共催シンポジウム趣旨説明

○中野 洋子(日本実験動物技術者協会 理事長、帝京科学大学生命環境学部)

S8-1 実験動物ブリーダーの苦悩～動物福祉とユーザーのニーズ、両立の模索～

○後藤 洋平

ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社

S8-2 動物薬開発における養殖魚の飼育管理上に必要な動物福祉

○川村 清隆

共立製薬株式会社

S8-3 畜産分野における動物福祉の捉え方と実現方法

○新村 毅

東京農工大学農学部

LASセミナー1 5月29日(水) 9:00～11:30 第3会場(みやこめっせ B1F 特別展示場A)

「知りたい！実験動物 part 3」

オーガナイザー：清成 寛(理化学研究所BDR)
三浦 竜一(東京大学)

セミナー概要

動物実験において、適切な動物種を選択し、適切な環境下で飼育し、適切な取り扱いをすることは、極めて重要なことである。そこで、新たな実験動物種の使用を検討するにあたって、その特性を理解し、動物の入手先、飼育管理方法、ハンドリングなど、取り扱いの基本(下記事項)を学ぶ機会を本セミナーで提供する。既に対象の実験動物種を使用している人にも本セミナーを機に改めて飼育や取り扱い方法の確認をしていただきたい。今年は一昨年から続くシリーズのpart 3として、「コウモリ」、「リスザル」、「ハダカデバネズミ」、「ブタ」をとりあげる。

各種実験動物に関する基本事項

- ①基本情報(分類、生理・生態、実験動物としての特性、研究利用の状況など)
- ②入手方法(入手元、入手の際の注意点、関連法令など)
- ③飼育管理方法(環境条件、ケージ、給餌、環境エンリッチメントなど)
- ④ハンドリング方法(捕獲、保定、投与など)

LAS1-1 暗闇でも大丈夫！音で“見る”能力を操る「コウモリ」

飛龍 志津子(同志社大学)

LAS1-2 いたずら好きでフレンドリー「ポリビアリスザル」

横田 伸一(東京大学)

LAS1-3 長寿の秘密をまるはだか！「ハダカデバネズミ」

河村 佳見(熊本大学)

LAS1-4 先端医学研究に貢献するモデル動物「ブタ」

本多 新(自治医科大学)

「動物の気持ちを理解する(行動解析)」

オーガナイザー：新美 君枝(理化学研究所CBS)
小木曾 昇(国立長寿医療研究センター)

セミナー概要

本セミナーでは、カエル、コウモリ、ハト、マウス、コモンマーモセット、マカクザルを用いた行動解析の実例、解析結果を紹介し、動物の行動から動物の「気持ち」を理解する取り組みについて、動物行動科学の概論から最新の研究結果まで幅広く講演いただきます。

LAS2-1 捕食者と被食者の戦術から探る合理的意志決定

西海 望(自然科学研究機構基礎生物学研究所)

LAS2-2 情動や本能を制御する視床下部の役割：マウスの攻撃行動や養育行動を例に

宮道 和成(理化学研究所BDR)

LAS2-3 コモンマーモセットのための行動課題の開発と課題中の脳機能イメージング

蛭名 鉄平(東京大学)

LAS2-4 採餌課題と自然行動観察によるマカクザルの内省能力の探求

宮本 健太郎(理化学研究所CBS)

「いまから始めるバイオインフォマティクス」

オーガナイザー：磯谷 綾子(奈良先端科学技術大学院大学)
井上 貴史(公益財団法人実中研)

セミナー概要

生命現象を理解するには、ゲノムDNAから転写されるRNA、遺伝子の最終産物となる蛋白質、蛋白質の機能により生体内で合成される様々な代謝産物、これらの解析が必要不可欠である。近年の生命科学研究では、次世代シーケンサーに代表されるようにハイスループット機器の進歩に伴い、膨大な情報を簡単に入手できるようになってきた。一方で、これらの膨大な情報から生命現象を理解するための情報を絞り込むためには、バイオインフォマティクスを駆使する必要がある。

動物実験を主とするウェットの研究者や技術者の中には、バイオインフォマティクスに多少の苦手意識がある人もいるかもしれない。

しかし、近年の生命科学系トップジャーナルでは、軒並みバイオインフォマティクスを用いた成果が報告されていることから、バイオインフォマティクスが、新たな生命現象の理解に重要な役割を担っていることは明瞭である。

本セミナーでは、バイオインフォマティクスの入門者に向けて、シングルセルRNAシーケンス解析、プロテオーム解析、メタボローム解析、トランスオミクス解析の専門家の方々に、それぞれの特徴や適用方法などをご講演いただく。バイオインフォマティクス入門者の方々には、自身の携わる研究の発展に活用していただきたい。

LAS3-1 AIの手引きで実践するシングルセルRNAシーケンスデータ解析

二階堂 愛(理化学研究所生命機能科学研究センター)

LAS3-2 プロテオーム解析とそのデータの取り扱い方

川島 祐介(かずさDNA研究所)

LAS3-3 空間メタボロミクス～代謝生化学の二次元展開～

杉浦 悠毅(京都大学)

LAS3-4 ウェット研究者のための“オミクスデータからパスウェイ仮説を立てる”

小鍛治 俊也(奈良先端科学技術大学院大学)

口頭発表(優秀発表賞)

示説・討論 5月29日(水) 9:30～12:00 第1会場(ロームシアター京都 1F サウスホール)
5月30日(木) 17:00～18:00 ポスター・器材展示会場(みやこめっせ 1F 第2展示場C・D)

座長: 鬼頭 靖司(名古屋大学)
松下 夏樹(愛知医科大学)

BP-01 造血幹細胞の骨髄へのホーミングに重要な働きをするタンパク質とその糖鎖構造についての研究

○Xuchi Pan、成瀬 智恵、松崎 朋子、杉原 一司、浅野 雅秀
京都大学大学院医学研究科実験動物学

BP-02 新規ゲノム編集マウスシリーズを用いた器官形成に重要な機能的エキソンの探索

○鈴木 颯、久野 朗広、村田 知弥、杉山 文博、水野 聖哉
筑波大学医学医療系トランスポーター医学研究センター生命科学動物資源センター

BP-03 生殖細胞膜特異的糖脂質セミノリピドの欠損はセルトリ細胞の極性異常及び血液精巣関門の破綻を招く

○秋山 かのん¹⁾、則竹 康佑¹⁾、中野 愛里¹⁾、古瀬 幹夫^{2,3)}、山下 竜幸⁴⁾、
本家 孝一⁵⁾、小沢 学⁶⁾、伊川 正人^{6,7)}、藤原 祥高⁸⁾、岩森 督子^{9,10)}、
水野 聖哉¹¹⁾、越後貫 成美¹²⁾、小倉 淳郎¹²⁾、高島 誠司^{1,13,14)}
¹⁾信州大、²⁾生理学研究所、³⁾総研大院、⁴⁾高知大医先端医療学、⁵⁾高知大医、⁶⁾東大医科研、
⁷⁾阪大微研、⁸⁾国循、⁹⁾九大院農、¹⁰⁾学振RPD、¹¹⁾筑波大、¹²⁾理研BRC、¹³⁾信大先鋭領域バイオメディカル研、
¹⁴⁾信大グリーン社会共創

BP-04 プタ受精卵へのAAVベクターを用いたノックイン技術の開発

○野口 光央¹⁾、谷原 史倫¹⁾、稲毛 由佳²⁾、井上 誠^{1,3)}、花園 豊¹⁾、横尾 隆²⁾、本多 新¹⁾
¹⁾自治医科大学先端医療技術開発センター、²⁾東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科、
³⁾住友ファーマ株式会社

BP-05 造血幹細胞の生着を許容する新規Kit変異ラット

○飯田 龍哉¹⁾、石田 紗恵子¹⁾、Jinxi Wang¹⁾、服部 晃佑¹⁾、吉見 一人^{1,2)}、山崎 聡^{3,4)}、
真下 知士^{1,2)}
¹⁾東京大学医科学研究所実験動物研究施設先進動物ゲノム研究分野、
²⁾東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センターゲノム編集研究分野、
³⁾東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センター細胞制御研究分野、
⁴⁾筑波大学医学医療系幹細胞治療研究室

BP-06 細胞競合と胎仔発生環境を用いた完全な移植用皮膚片の作成

○水野 直彬^{1,2)}、長野 寿人^{2,3)}、佐藤 秀征²⁾、水谷 英二^{2,4)}、柳田 絢加^{2,5)}、
加納 麻弓子^{2,6)}、笠井 真理子²⁾、山本 祐美²⁾、渡部 素生²⁾、サッチー ファビアン⁷⁾、
正木 英樹²⁾、金井 正美¹⁾、中内 啓光^{2,7)}

¹⁾東京医科歯科大学実験動物センター疾患モデル動物解析学、²⁾東京医科歯科大学幹細胞治療研究室、
³⁾防衛医科大学校形成外科、⁴⁾筑波大学幹細胞治療研究室、⁵⁾東京大学農学部獣医解剖学、
⁶⁾聖マリアンナ医科大学代謝・内分泌内科学、⁷⁾スタンフォード大学幹細胞生物・再生医療学

BP-07 エクソシスト複合体はマウスの卵母細胞の維持と卵胞発育に必須である

○グウェン リエウ キム チー¹⁾、康 宇鎮²⁾、杉山 文博²⁾、小倉 淳郎³⁾、高橋 智²⁾、
水野 聖哉²⁾

¹⁾筑波大学大学院ヒューマンバイオロジー学位プログラム、
²⁾筑波大学医学医療系トランスボーダー医学研究センター生命科学動物資源センター、
³⁾理化学研究所バイオリソース研究センター遺伝工学基盤技術室

BP-08 能動的従順性の選択交配と腸内細菌叢の変化：マウスの家畜化における腸内細菌の役割

○ビシュワ ビーム^{1,2)}、森 宙史^{2,3)}、豊田 敦⁴⁾、黒川 顕^{2,5)}、小出 剛^{1,2)}

¹⁾国立遺伝学研究所マウス開発研究室、²⁾総合研究大学院大学、³⁾国立遺伝学研究所ゲノム多様性研究室、
⁴⁾国立遺伝学研究所比較ゲノム解析研究室、⁵⁾国立遺伝学研究所ゲノム進化研究室

BP-09 精巣上で発現する *Pate* ファミリー遺伝子が協調して精子成熟をサポートする

○篠原 日菜¹⁾、平 歩夢¹⁾、荒木 喜美¹⁾、伊川 正人²⁾、野田 大地^{1,2)}

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター、²⁾大阪大学微生物病研究所

BP-10 マーモセットの乳仔期における親子分離が脳の遺伝子発現へ与える影響

○篠原 晴香^{1,3)}、目黒 牧子²⁾、井上 貴史¹⁾、島津 美幸²⁾、服部 真智子⁴⁾、日比野 仁士⁴⁾、
深澤 一正⁴⁾、佐々木 えりか¹⁾、堀家 慎一^{2,3)}

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾金沢大学疾患モデル総合研究センター疾患オミクス分野、
³⁾大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所金沢校、
⁴⁾日本クレア株式会社八百津生育場中動物事業部

BP-11 染色体工学技術を用いたヒト抗体重鎖・λ軽鎖遺伝子全長を保持する完全ヒト抗体産生マウスの開発

○下谷 和人¹⁾、馬場 重典²⁾、森脇 崇史^{1,2)}、阿部 智志³⁾、岡田 茜³⁾、香月 加奈子³⁾、
香月 康宏^{1,2,3,4)}

¹⁾鳥取大学大学院医学系研究科染色体医工学講座、²⁾鳥取大学医学部生命科学科染色体医工学講座、
³⁾鳥取大学染色体工学研究センター、
⁴⁾自然科学研究機構生命創成探究センター (ExCELLS) 染色体工学研究グループ

BP-12 ヒト化マウスを用いたヒトTh2細胞誘導型アレルギー性接触性皮膚炎モデルの確立

○大野 裕介¹⁾、望月 美沙¹⁾、川井 健司¹⁾、中村 征史²⁾、鈴木 隆二²⁾、後藤 元人¹⁾、
高橋 利一¹⁾、伊藤 守¹⁾、伊藤 亮治¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾Repertoire Genesis株式会社

口頭発表(一般)

口頭発表 I 5月29日(水) 9:00 ~ 11:50

第4会場(みやこめっせ B1F 大会議室)

「管理・施設・倫理・福祉」

座長：古賀 真昭(日本新薬株式会社)

O-01 マウスの体温モニタリングにて TDIR は十分な精度と低コストを実現する

○宮内 輝¹⁾、右京 里那²⁾、西牟田 勇哉¹⁾、長谷川 美鳳²⁾、高木 和也¹⁾、杵鞭 健太¹⁾、
奥田 悟崇¹⁾、坂本 信介²⁾

¹⁾三菱電機(株)、²⁾宮崎大学・動物環境管理

O-02 アウトリーチ活動としてのメディア対応の実践

○安倍 宏明、石川 玄

マーシャル・バイオリソース・ジャパン株式会社

O-03 福岡大学アニマルセンターにおける業務のリモート化について

○田中 聖一¹⁾、古賀 崇男¹⁾、川口 雅人²⁾、永島 博²⁾

¹⁾福岡大学アニマルセンター、²⁾(株)アニマルケア

「実験手技・代替・麻酔・鎮痛」

座長：葛谷 和也(科研製薬株式会社)

O-04 Virtual Reality (VR) による動物実験技術訓練用機材の開発

○橋本 晴夫、高倉 彰

公益財団法人実中研

O-05 胎盤内注射による子宮内ゲノム編集の研究

○ゴゴレバ ナタリア^{1,2,3)}、濱田 理人^{2,3)}、高橋 智^{2,3)}

¹⁾Ph.D. Program in Human Biology, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba、

²⁾Department of Anatomy and Embryology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba、

³⁾Laboratory Animal Resource Center, Faculty of Medicine, University of Tsukuba

O-06 造影CTイメージングにおける効率的な組織セグメンテーション技法の開発

○澁谷 仁寿、及川 智菜、小澤 恵代、田村 勝

理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析技術室

O-07 発育鶏卵接種によるマウス胚性幹細胞のテラトーマ形成試験の代替

○今井 啓之¹⁾、藤野 郁²⁾、松屋 純人^{2,3)}、兵頭 宗巖¹⁾、加納 聖²⁾、日下部 健¹⁾

¹⁾山口大学共同獣医学部獣医解剖学教室、²⁾山口大学共同獣医学部獣医発生学教室、

³⁾鹿児島大学共同獣医学部獣医解剖学教室

「栄養・生理・生化学」

座長：吉沢 隆浩 (信州大学)

O-08 骨格筋のUSP2によるグルコース代謝制御

○北村 浩¹⁾、藤本 政毅¹⁾、橋本 茉由子²⁾、高橋 英機³⁾

¹⁾酪農学園大学獣医学類、²⁾大阪大谷大学薬学部、³⁾九州大学大学院医学研究院

O-09 軟食摂取による肥満のない2型糖尿病ラットモデルの病態メカニズムの解明

○秋枝 さやか、山口 史剛、伊達 紫

宮崎大学フロンティア科学総合研究センター

O-10 中枢NPYはニワトリヒナの脾臓における暑熱ストレス応答を軽減し、抗酸化機能を強化する

○西村 悠¹⁾、ワン イン²⁾、ザカリヤエルホセニ モハメド³⁾、西村 正太郎^{1,4)}、保坂 善真^{1,4)}、高橋 英機⁵⁾、スルチョードリ ヴィシュワジット^{1,6)}

¹⁾九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻、²⁾揚州大学動物科学技術学院、

³⁾アスワン大学動物家禽行動管理学部、⁴⁾九州大学農学部、⁵⁾九州大学大学院医学研究院実験動物学分野、

⁶⁾九州大学基幹教育院

「脳・神経・行動」

座長：坪田 裕司 (大阪河崎リハビリテーション大学)

O-11 卵白アレルギー感作による行動変容

飯田 幸恵¹⁾、矢部 富雄^{1,2,3)}、北口 公司^{1,2)}、○吉崎 嘉一⁴⁾

¹⁾岐阜大学大学院自然科学技術研究科、²⁾岐阜大学先制食未来研究センター、³⁾iGCORE、

⁴⁾愛知県医療療育総合センター発達障害研究所、

O-12 機械学習を利用したマウスの痒みの質と量の解析

○小林 幸司¹⁾、宮崎 優介²⁾、坂本 直観²⁾、山本 雅人³⁾、村田 幸久^{1,2,4)}

¹⁾東京大学食と動物のシステム科学研究室、²⁾東京大学放射線動物科学研究室、

³⁾北海道大学自律系工学研究室、⁴⁾東京大学獣医薬理学研究室

O-13 機械学習を用いた変形性骨関節炎モデルラットの歩容解析方法の開発

○竹ノ内 晋也¹⁾、港 高志¹⁾、福田 将大¹⁾、小林 幸司¹⁾、村田 幸久^{1,2,3)}

¹⁾東京大学大学院農学生命科学研究科放射線動物科学研究室、

²⁾東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室、

³⁾東京大学大学院農学生命科学研究科食と動物のシステム科学研究室

「解剖・組織・病理・病態」

座長：中村 紳一郎 (麻布大学)

O-14 精巣環境の変化が精子幹細胞動態に及ぼす影響の解析

○飯柴 彩佳¹⁾、永井 千智¹⁾、宮崎 眞祐¹⁾、小西 夏生¹⁾、藤原 祥高²⁾、高島 誠司^{1,3,4)}

¹⁾信州大学院総合理工学研究科繊維学専攻、²⁾国立循環器病研究センター研究所先端医療技術開発部、

³⁾信州大学先鋭領域バイオメディカル研究所、⁴⁾信州大学グリーン社会共創機構

O-15 生殖細胞と体細胞が協調して生み出す精子形成周波の解析

○永井 千智¹⁾、飯柴 彩佳¹⁾、宮崎 眞祐¹⁾、小西 夏生¹⁾、藤原 祥高²⁾、高島 誠司^{1,3,4)}

¹⁾信大院総合理工、²⁾国立循環器病研究センター、³⁾信大先鋭領域バイオメディカル研、

⁴⁾信大グリーン社会協創機構

O-16 バイオデータベースより見出した新規低カルシウム血症モデルマウスの解析

○中村 鉄平^{1,2)}、難波 貴志³⁾、市居 修^{2,3,4)}、岩永 理沙⁵⁾、笹部 一輝⁵⁾、昆 泰寛³⁾、
松村 佳代子⁵⁾、森松 正美¹⁾

¹⁾北大院獣医実験動物、²⁾北大院農アグリメディカル、³⁾北大院獣医解剖、
⁴⁾北海道大One Healthリサーチセンター、⁵⁾日本食品分析センター

O-17 高齢スunks (*Suncus murinus*) における洞毛を有する顔面皮膚に由来する毛芽腫

○木村 透

山口大学共同獣医学部

口頭発表Ⅱ

5月29日(水) 14:40～17:20 第3会場(みやこめっせ B1F 特別展示場A)

「発生工学1」

座長：市瀬 広武(琉球大学)

O-18 近交系8系統における同一条件下でのエレクトロポレーション法を用いたノックアウトマウスの作製

○玉里 友宏¹⁾、池田 祥久^{1,4)}、森本 健斗³⁾、小林 慶子¹⁾、藤木 雄太¹⁾、水野 沙織²⁾、
岩間 瑞穂²⁾、綾部 信哉²⁾、久野 朗広⁵⁾、水野 聖哉⁴⁾、杉山 文博⁴⁾、吉木 淳²⁾

¹⁾ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社、²⁾理化学研究所バイオリソース研究センター、
³⁾筑波大学大学院人間総合科学学術院、
⁴⁾筑波大学トランスボーダー医学研究センター生命科学動物資源センター、
⁵⁾筑波大学解剖学・発生学

O-19 Tet-ON/OFF システムによる生体内遺伝子発現制御のための時空間アトラスの作製

○田口 純平¹⁾、小沢 学¹⁾、山田 泰広²⁾

¹⁾東京大学医科学研究所、²⁾東京大学大学院医学系研究科

O-20 CRISPR-Cas3ゲノム編集による遺伝子改変動物作製基盤の構築

○吉見 一人^{1,2)}、山内 祐子²⁾、服部 晃佑¹⁾、谷口 ひろみ¹⁾、真下 知士¹⁾

¹⁾東京大学医科学研究所、²⁾筑波大学医学医療系

O-21 核移植技術を用いた異種野生マウス由来ES細胞の樹立

渡邊 奈穂美¹⁾、廣瀬 美智子¹⁾、長谷川 歩未¹⁾、持田 慶司¹⁾、小倉 淳郎^{1,2)}、

○井上 貴美子^{1,2)}

¹⁾理化学研究所バイオリソース研究センター、²⁾筑波大学生命農学学位プログラム

「発生工学2」

座長：磯谷 綾子(奈良先端科学技術大学院大学)

O-22 化学的組成が明らかなラットの精子凍結保存液及び凍結法の開発

○守田 昂太郎¹⁾、持田 慶司²⁾、長谷川 歩未²⁾、森田 健斗^{1,2)}、和島 沙季¹⁾、小原 実穂³⁾、
山海 直³⁾、小倉 淳郎²⁾、浅野 雅秀¹⁾

¹⁾京大院・医・動物、²⁾理研BRC、³⁾医薬健康研

O-23 ラット卵子の凍結保存におけるMG132の効果

○中川 優貴¹⁾、金子 武人^{1,2)}

¹⁾岩手大学理工学部化学・生命理工学科、²⁾岩手大学大学院理工学研究科自然・応用科学専攻

O-24 雌性前核融合による加齢卵子低出生率の改善

○本多 新^{1,2,3}、守田 昂太郎²、波多野 裕^{4,5}、八尾 竜馬⁴、藪田 幸宏²、大田 浩²、
斎藤 通紀²、山縣 一夫⁴、浅野 雅秀²

¹自治医科大学先端医療技術開発センター、²京都大学大学院医学研究科、

³理化学研究所バイオリソース研究センター、⁴近畿大学生物理工学部、⁵山梨大学大学院総合研究部

O-25 異種間移植によるラット卵巣由来卵子からの産子作製法の開発

○竹鶴 裕亮^{1,2}、平山 瑠那^{3,4}、夏目 里恵³、阿部 学³、笹岡 俊邦¹、崎村 建司³

¹新潟大学脳研究所動物資源開発研究分野、

²東京大学医科学研究所実験動物研究施設先進動物ゲノム研究分野、

³新潟大学脳研究所モデル動物開発分野、⁴富山大学大学院生命融合科学教育部行動生理学講座

「発生工学3」

座長：本多 新(自治医科大学)

O-26 マウスとラットの異種間キメラにおけるラット肺上皮細胞の解析

○村田 大和¹、由利 俊祐¹、伊川 正人²、磯谷 綾子¹

¹奈良先端大、²大阪大

O-27 マイクロミニピッグにおける過剰排卵プロトコルの構築

○パイン トー¹、杷野 一輝²、高島 諭³、齊藤 いぶき³、高須 正規^{1,2}

¹岐阜大学大学院共同獣医学研究科、²岐阜大学高等研究院、³岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科

O-28 マーモセット疑似着床胚培養法の確立と体外における着床前後胚発生の観察

○岸本 恵子¹、Christopher Penfold²、上岡 美智子¹、Huaiyu Hu²、Thorsten Boroviak³、
佐々木 えりか¹

¹実中研、²Univ. of Cambridge、³Upstate Med. Univ.

O-29 高力価カニクイザル卵胞刺激ホルモン産生CHO細胞の作出

○守村 敏史、前田 尚、我孫子 裕子、依馬 正次

滋賀医科大学・動物生命科学研究センター・幹細胞・ヒト疾患モデル研究分野

「発生工学4、その他」

座長：小沢 学(東京大学)

O-30 活性酸素による酸化ストレス障害が及ぼすマウス精子運動機能低下と分子状水素の抑制効果

○野田 義博¹、根本 妙子²、金井 正美^{1,3}

¹東京医科歯科大学動物実験センター、²順天堂大学神経学講座運動障害疾患病態研究、

³東京医科歯科大学疾患モデル動物解析学分野

O-31 デザイナー脂肪間質細胞の生体内特性を評価するためのマウスを用いた実験法の開発

○市瀬 広武¹、市瀬 多恵子^{1,2}

¹琉球大学医学部附属動物実験施設、²琉球大学病院形成外科

O-32 Mammalian phenotype ontology (MP) の日本語訳の作成について

○高月 照江¹、Susan M Bello²、土肥 栄祐³、櫛田 達也⁴、榎屋 啓志⁴、藤原 豊史¹

¹ROIS-DS ライフサイエンス統合データベースセンター、²The Jackson Laboratory, Bar Harbor ME USA、

³国立精神神経医療研究センター、⁴理化学研究所バイオリソース研究センター

O-33 多様な対話の場で得た、実験動物学への理解の向上について

○前田 龍成¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中潟 直己²⁾、サトゥー クーラ³⁾、ブルゲード フランク⁴⁾、
ジャウバー ジャン⁴⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)資源開発分野、

²⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)生殖工学共同研究分野、

³⁾ヘルシンキ大学生命科学研究所GMユニット、

⁴⁾フランスパリパスツール研究所マウス遺伝学ユニット

口頭発表Ⅲ

5月29日(水) 14:40～16:20

第4会場(みやこめッセ B1F 大会議室)

「微生物・感染・免疫1」

座長：池 郁生(理化学研究所バイオリソース研究センター)

O-34 NOG-hIL-4-Tgマウスを用いた担がんヒト化マウスの評価

○大島 志乃¹⁾、伊藤 亮治²⁾、真鍋 良幸³⁾、山田 壮我¹⁾、伊藤 啓太³⁾、津田 万里⁴⁾、
柏木 寛史⁵⁾、安田 敦⁶⁾、關 敏郎⁶⁾、深瀬 浩一³⁾、石本 人士⁵⁾、椎名 隆¹⁾、
亀谷 美恵¹⁾

¹⁾東海大学医学部基礎医学系分子生命科学、

²⁾実験動物中央研究所実験動物応用研究部ヒト疾患モデル研究室、

³⁾大阪大学大学院理学系研究科化学専攻、⁴⁾東海大学緩和医療科学、⁵⁾東海大学医学部産婦人科学、

⁶⁾東海大学医学部腎内分泌代謝内科

O-35 囹動物法による微生物検査をすり抜けたネズミ大腸蠕虫の感染とフェンベンダゾール飼料給餌による駆虫

○物江 洋人¹⁾、小澤 和典¹⁾、谷津 真也²⁾、菅野 咲織²⁾、丹治 静保¹⁾、関口 美穂¹⁾

¹⁾福島県立医科大学実験動物研究施設、²⁾株式会社エーテック

O-36 SIV感染サル化マウス体内でのサル免疫細胞の動態—病原性の異なるSIV株を用いた比較検討—

○有貝 優哉¹⁾、佐藤 瑠奈¹⁾、西本 佳那子¹⁾、伊吹 謙太郎¹⁾、三浦 智行²⁾、阪脇 廣美²⁾

¹⁾京都大学医学研究科人間健康科学系専攻、²⁾京都大学医生物学研究所

「微生物・感染・免疫2」

座長：伊吹 謙太郎(京都大学)

O-37 白血球免疫グロブリン様受容体TARM1の関節炎発症における役割

○矢部 力朗^{1,2)}、岩倉 洋一郎²⁾

¹⁾東京都医学総合研究所、²⁾東京理科大学

O-38 アカゲザルの*Filobacterium*属菌について

○池 郁生

理研BRC

O-39 消毒剤の効果検証：液相混和試験からキャリア・拭き取り試験までの包括的評価

○大城 凜香¹⁾、前花 祥太郎¹⁾、福住 悠太郎¹⁾、竹原 一明^{2,3)}、久保 誠¹⁾、酒井 宏治^{2,3)}

¹⁾北里大学、²⁾東京農工大学、³⁾国立感染症研究所

「バイオリソース」

座長：小林 俊寛(東京大学)

O-40 マウスの系統別疾患研究に外挿可能なヒトゲノム多型情報のデータ統合解析

○高田 豊行¹⁾、三橋 信孝²⁾、守屋 勇樹²⁾、千葉 啓和²⁾、粕川 雄也³⁾、榎屋 啓志¹⁾

¹⁾理化学研究所バイオリソース研究センター統合情報開発室、

²⁾情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設ライフサイエンス統合データベースセンター、

³⁾理化学研究所生命医科学研究センター生命医科学大容量データ技術研究チーム

O-41 完全ヒト抗体産生動物×ファージディスプレイによる腸AccumBody作製と複合バイオリソースへの応用

○飛知和 弦輝^{1,2)}、岩井 優実³⁾、永島 明咲³⁾、嶋本 亮輔³⁾、Yayan Wang^{1,2)}、萩原 諒平²⁾、
香月 加奈子²⁾、本多 英嗣⁴⁾、宇野 佳奈⁴⁾、宇野 愛海⁴⁾、Abdur Rafique³⁾、里深 博幸²⁾、
富塚 一磨⁴⁾、伊東 祐二³⁾、香月 康宏^{1,2,5,6)}

¹⁾鳥取大学大学院医学系研究科医科学専攻、²⁾鳥取大学染色体工学研究センター、

³⁾鹿児島大学大学院理工学研究科理学専攻化学プログラム、⁴⁾東京薬科大学生命科学部応用生命科学科、

⁵⁾鳥取大学医学部生命科学科、⁶⁾生命創成探究センター

O-42 ラット体外受精における媒精時間の検討

○中潟 直己¹⁾、三小田 伸之^{1,2)}、山鹿 優真³⁾、中尾 聡宏³⁾、竹尾 透³⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)生殖工学共同研究分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)資源開発分野

O-43 東大医科研におけるラットリソース

○石田 紗恵子¹⁾、吉見 一人^{1,2)}、竹鶴 裕亮¹⁾、服部 晃佑¹⁾、山内 祐子¹⁾、飯田 龍哉¹⁾、
小林 俊寛³⁾、真下 知士^{1,2)}

¹⁾東京大学医科学研究所実験動物研究施設先進動物ゲノム研究分野、

²⁾東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センターゲノム編集研究分野、

³⁾東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター発生再生学分野

「国際賞」

5月29日(水) 16:30 ~ 17:30

第4会場(みやこめっせ B1F 大会議室)

座長：後藤 一雄(帝京大学)

Dinh Thi Huong Tra(理化学研究所バイオリソース研究センター)

O-44 Therapeutic potential of fenugreek seed extracts on *Escherichia coli* urinary tract infection in BALB/c mice

○Siti Nor Hikmah Abdul Rasid¹⁾, Leslie Thian Lung Than¹⁾, Pike See Cheah¹⁾, Shalini Vellasamy²⁾

¹⁾Faculty of Medicine and Health Sciences, Universiti Putra Malaysia,

²⁾Faculty of Medicine, Bioscience and Nursing, MAHSA University

O-45 Cognitive and social behaviors during abstinence from chronic toluene inhalation in adolescent rats

○Joannes Luke B. Asis¹⁾, Johanna C. Munar²⁾, Ajina C. Carampel¹⁾, Jariel N. Bacar²⁾,
Cynthia Grace C. Gregorio³⁾, Gregory J. Quirk²⁾, Rohani Cena-Navarro²⁾

¹⁾College of Medicine, University of the Philippines Manila,

²⁾National Institute of Molecular Biology and Biotechnology, National Institutes of Health, University of the Philippines Manila,

³⁾Institute of Chemistry, University of the Philippines Diliman

O-46 Increased amyloid burden precedes glial activation in a genetic mouse model of Alzheimer's disease

○Yuek Ling Chai^{1,2)}, Wei Wang¹⁾, Jasinda H Lee^{3,4)}, Christopher LH Chen^{1,2)}, Thiruma V Arumugam^{5,6)}, Mitchell KP Lai^{1,2)}

¹⁾Department of Pharmacology, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore,

²⁾Memory, Ageing and Cognition Centre, National University Health System, Singapore,

³⁾Department of Biochemistry, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore,

⁴⁾NUS Healthy Longevity Translational Research Programme, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore,

⁵⁾Department of Physiology, Anatomy and Microbiology, La Trobe University, Australia,

⁶⁾School of Pharmacy, Sungkyunkwan University, Republic of Korea

O-47 Evaluation of phytochemical constituents, antioxidant capacity with special reference to hypoglycaemic activity of the tuberous root of *Asparagus racemosus* on Wistar albino rats

○Anusha Senevirathne¹⁾, Vijitha Paheerathan²⁾, Piratheepkumar Rajadurai²⁾, Sivakanesan Ramiah³⁾

¹⁾Department of Biochemistry, Faculty of Medical Sciences, University of Sri Jayewardenepura,

²⁾Faculty of Siddha Medicine, Trincomalee Campus, Eastern University,

³⁾Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, University of Peradeniya

O-48 Simultaneous protective immune responses of ducks against duck plague and fowl cholera by recombinant duck enteritis virus vector expressing *Pasteurella multocida* OmpH gene

○Nisachon Apinda¹⁾, Venugopal Nair^{2,3,4)}, Nattawooti Sthitmatee¹⁾

¹⁾Faculty of Veterinary Medicine, Chiang Mai University, ²⁾The Pirbright Institute,

³⁾Jenner Institute, University of Oxford, ⁴⁾Department of Biology, University of Oxford

口頭発表Ⅳ

5月30日(木) 9:00 ~ 10:50

第4会場(みやこめっせ B1F 大会議室)

「遺伝・育種・遺伝子機能1」

座長：横井 伯英(京都大学)

O-49 マウス腎症モデルを用いた新規ポドサイト障害保護因子の解明

○渡邊 正輝¹⁾、瀧本 颯人¹⁾、磯部 亜衣¹⁾、高橋 悠記¹⁾、佐々木 隼人¹⁾、中野 堅太²⁾、岡村 匡史²⁾、佐々木 宣哉¹⁾

¹⁾北里大学獣医学部実験動物学研究室、²⁾国立国際医療研究センター

O-50 ScKiP法を用いた心機能を制御する新規RNA結合タンパクの同定

○三上 夏輝¹⁾、村田 知弥²⁾、杉山 文博²⁾、水野 聖哉²⁾

¹⁾筑波大学大学院人間総合科学研究学群ヒューマンバイオロジー学位プログラム、

²⁾筑波大学医学医療系・生命科学動物資源センター

O-51 C57BL/6系統マウスの亜系統間に見られる遺伝子スクリーニング

○山本 真史¹⁾、内田 立樹^{1,2)}、織田 敏樹^{1,3)}、田中 舞¹⁾、林元 展人¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研ICLASモニタリングセンター、²⁾株式会社ジェー・イー・シー、

³⁾株式会社アドバンテック

「遺伝・育種・遺伝子機能2」

座長：田村 勝(理化学研究所バイオリソース研究センター)

O-52 CCDC183は精子形成過程における鞭毛周囲の細胞質陥入および軸糸微小管のコンパートメント化に必須である

○嶋田 圭祐¹⁾、伊川 正人^{1,2,3)}

¹⁾大阪大学微生物病研究所、²⁾大阪大学感染症総合教育研究拠点、³⁾東京大学医科学研究所

O-53 CENP-C N末端ドメインの欠損は皮膚腫瘍形成と染色体異常性を促進する

○奥村 和弘¹⁾、徳永 夕莉香^{1,2)}、音山 敬祐^{1,2)}、田中 晴空^{1,2)}、原 昌稔³⁾、深川 竜郎³⁾、若林 雄一¹⁾

¹⁾千葉県がんセンター研究所がんゲノムセンター実験動物研究部、²⁾千葉大学大学院医学薬学府、³⁾大阪大学大学院生命機能研究科

O-54 免疫系ヒト化マウス作製に向けた新規Mb領域クローニング法の開発

○岸間 葉々美¹⁾、宮本 人丸¹⁾、阿部 智志²⁾、岡田 茜²⁾、中川 和奏¹⁾、山崎 匡太郎³⁾、香月 加奈子²⁾、森脇 崇史¹⁾、宇野 愛海⁴⁾、冨塚 一磨⁴⁾、香月 康宏^{1,2,3)}

¹⁾鳥取大学大学院医学系研究科染色体医工学講座、²⁾鳥取大学染色体工学研究センター、³⁾自然科学研究機構生命創成探究センター(ExCELLS)染色体工学研究グループ、⁴⁾東京薬科大学生命科学部応用生命科学科生物工学研究室

「遺伝・育種・遺伝子機能3」

座長：岡村 匡史(国立国際医療研究センター)

O-55 マウスの赤血球内寄生原虫の増殖性を規定する遺伝因子の探索・同定

○宮坂 勇輝、大野 民生

名古屋大学大学院医学系研究科実験動物部門

O-56 比較トランスクリプトーム解析による肥満糖尿病モデルにおける膵島障害機序の解明

○水野 智花¹⁾、伊藤 佑奈¹⁾、向山 裕樹¹⁾、星野 貴一²⁾、大野 民生³⁾、横井 伯英¹⁾

¹⁾京都大学大学院農学研究科動物遺伝育種学分野、²⁾(株)星野試験動物飼育所、³⁾名古屋大学大学院医学系研究科附属医学教育研究支援センター

O-57 肥満糖尿病モデルZFDMM ラットの糖尿病発症における性差の解明

○横井 伯英¹⁾、中田 千陽¹⁾、伊藤 佑奈¹⁾、重中 咲希¹⁾、水野 智花¹⁾、星野 貴一²⁾

¹⁾京都大学大学院農学研究科動物遺伝育種学分野、²⁾(株)星野試験動物飼育所

「薬理・安全性」

座長：櫻木 求(大鵬薬品工業株式会社)

O-58 臨床を想定したラット左室駆出率低下心筋梗塞モデルの構築について

○下平 龍太郎、高橋 一成、高御堂 大慈、堤 宏禎、柳田 淳子、大熊 健司、大塚 茉依、村井 隆、池野 明久

株式会社ケー・エー・シー

O-59 増幅MYCN遺伝子におけるDNA損傷はATR阻害により増強される

○高取 敦志¹⁾、頼 笑疑^{1,2)}、養田 裕行¹⁾、渡部 隆義¹⁾、篠崎 喜脩¹⁾

¹⁾千葉県がんセンター研究所がん先進治療開発研究室、²⁾千葉大学大学院医学薬学府

「疾患モデル1」

座長：森岡 裕香(神戸大学)

O-60 疾患モデルマウスを用いた顔面肩甲上腕型筋ジストロフィーの発症過程の解析

○吉沢 隆浩¹⁾、宮崎 大吾²⁾、高谷 智英³⁾、中村 昭則⁴⁾、古庄 知己⁵⁾¹⁾信州大学基盤研究支援センター動物実験支援部門、²⁾信州大学医学部附属病院信州診療連携センター、³⁾信州大学農学部分子細胞機能学研究室、⁴⁾国立病院機構まつもと医療センター、⁵⁾信州大学医学部遺伝医学教室

O-61 側頭葉てんかんモデルマウスにおける扁桃体刺激による高血糖と肥満誘導のメカニズム

○加藤 啓子、上窪 悠真、田中 朋也、利川 泰博、太田 真菜美、藤田 明子

京都産業大学生命科学研究科

O-62 患者由来腫瘍組織(PDX)マウスモデルにおける血液学的特徴

○土橋 悠¹⁾、長谷川 久美子²⁾、小澤 和典^{2,3)}、片平 清昭¹⁾、渡辺 慎哉²⁾¹⁾福島医大トランスレーショナルリサーチ機構、²⁾福島県立医科大学医療-産業TRセンター、³⁾福島県立医科大学医学部附属実験動物研究施設

O-63 L-セリン合成不全疾患モデルマウスとしての脳特異的Phgdh KOマウスの表現型解析

○古屋 茂樹^{1,2,3)}、中島 夢人²⁾、高鍋 莉紗子²⁾、吉良 早由里²⁾、池上 舞²⁾、古屋 裕美²⁾、
田代 康介^{1,2)}、江崎 加代子⁴⁾¹⁾九州大学大学院農学研究院、²⁾九州大学大学院生物資源環境科学府、³⁾九州大学実験生物環境制御センター、⁴⁾崇城大学生物生命学部

「疾患モデル2」

座長：庫本 高志(東京農業大学)

O-64 新たに単離された眼皮膚白皮症1B型モデルである白雪変異マウスの解析

○阿部 幸一郎¹⁾、石川 久美子²⁾、福西 菜穂子²⁾、藤原 公文²⁾、田中 政之²⁾、中村 彩花²⁾¹⁾東海大学医学部分子生命科学、²⁾東海大学生命科学統合支援センター

O-65 筋ジストロフィーモデルB10-mdxマウスの新たなコントロール系統の樹立について

○水澤 卓馬、小林 喜美男、山本 真史、保田 昌彦、小倉 智幸、高橋 利一

公益財団法人実中研

O-66 *Xenopus*胚の形態解析から同定したピロリ菌CagAの新規標的Wnt/PCPシグナルを介した胃発がん促進機序○金光 昌史^{1,2)}、盧 夢雪²⁾、ナイト クリストファ²⁾、平良 真規³⁾、洲崎 悦生¹⁾、
畠山 昌則^{2,4,5)}¹⁾順天堂大学大学院医学研究科、²⁾東京大学大学院医学系研究科、³⁾中央大学理工学部、⁴⁾微生物化学研究会微生物化学研究所、⁵⁾北海道大学遺伝子病制御研究所

O-67 免疫応答を負に制御する新規オーファンGPCRの解析

○澤邊 敦哉¹⁾、中村 晃¹⁾、後飯塚 遼²⁾、海部 知則¹⁾¹⁾東北医科薬科大学医学部免疫学教室、²⁾東京理科大学生命医科学研究所生体運命制御部門

「疾患モデル3」

座長：石田 紗恵子(東京大学)

O-68 mEDSにおける筋力低下は高脂肪食の摂取により回復する

○下垣外 咲桜、櫛笥 悠人、伊豆 弥生
岡山理科大学

O-69 KKラットは赤血球の形態異常を呈する

○長坂 夏奈¹⁾、小池 紗永¹⁾、ホアン ヒエウ¹⁾、田中 美有²⁾、桑村 充²⁾、松本 清司³⁾、
庫本 高志¹⁾
¹⁾東京農業大学農学部動物科学科、²⁾大阪公立大学獣医病理、³⁾元信州大学

O-70 テストステロンはKFRS4ラットにおける皮膚炎発症を抑制する

○林 健太、長坂 夏奈、北爪 知希、下笠 瞭太、ホアン ヒエウ、庫本 高志
東京農業大学農学部動物科学科動物栄養学研究室

O-71 新規神経軸索ジストロフィーモデルHspa8 遺伝子変異ノックインラットの病態メカニズム解析

○関口 隆寛¹⁾、田中 美有¹⁾、藤川 諒子¹⁾、井澤 武史¹⁾、庫本 高志²⁾、桑村 充¹⁾
¹⁾大阪公立大・獣医病理、²⁾東京農業大・農・動物科学

「疾患モデル4」

座長：佐々木 えりか(実験動物中央研究所)

O-72 月経を示すアラビアトゲマウスを用いた子宮内膜症の外科移植モデルの作製

○森竹 美紗樹¹⁾、名倉 悟郎¹⁾、米沢 菜奈美¹⁾、中島 隆之亮²⁾、篠原 明男¹⁾、
チョウジョウフ ナランツオツク³⁾、菱川 善隆³⁾、浅田 祐士郎⁴⁾、越本 知大¹⁾
¹⁾宮崎大学フロンティア科学総合研究センター生物資源分野、²⁾宮崎大学医学部、
³⁾宮崎大学医学部組織細胞化学分野、⁴⁾宮崎市郡医師会病院

O-73 ゲノム編集によるKlotho欠損ブタの作出とその表現型解析

○谷原 史倫^{1,2)}、野口 光央^{1,2)}、岩津 好隆²⁾、花園 豊^{1,2)}、黒尾 誠²⁾、本多 新^{1,2)}
¹⁾自治医科大学先端医療技術開発センター、²⁾自治医科大学分子病態治療研究センター

O-74 自然発症のカニクイザル子宮内膜症に対するペプチド治療法の有効性

○金子 萌美¹⁾、宮原 涼香¹⁾、小沢 哲史¹⁾、岩谷 千鶴²⁾、土屋 英明²⁾、野中 元裕³⁾、
中村 紳一朗^{1,2)}
¹⁾麻布大学獣医学部、²⁾滋賀医科大学動物生命科学研究センター、
³⁾京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

ランチョンセミナー LS-1(協賛企業：日本クレア株式会社)

5月29日(水) 12:15～13:15 第2会場(ロームシアター京都 B2F ノースホール)

座長：篠原雅巳(日本クレア株式会社)

演題：「アンメットメディカルニーズとモデル動物のリポジショニング」

演者：太田毅(京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻生体機構学分野)

ランチョンセミナー LS-2(協賛企業：ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社)

5月29日(水) 12:15～13:15 第3会場(みやこめっせ B1F 特別展示場A)

座長：上田尚(ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社)

演題：「JAX玉手箱 ～JAXマウスで拓く実験動物学の未来～」

演者：内田あや(ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社 Technical Information Services)

ランチョンセミナー LS-3(協賛企業：(株)夏目製作所)

5月29日(水) 12:15～13:15 第4会場(みやこめっせ B1F 大会議室)

座長：小川哲平((株)夏目製作所)

演題：「動物実験機材の新時代・深層学習を用いた「マウス尾静脈自動注射システム・AUTiv(オーティヴ)」

演者：井上拓哉((株)Preferred Networks)

越川隆史(住商ファーマインターナショナル(株))

小川哲平((株)夏目製作所)

ランチョンセミナー LS-4(協賛企業：三浦工業株式会社)

5月30日(木) 12:15～13:15 第2会場(ロームシアター京都 B2F ノースホール)

座長：佐々木えりか(公益財団法人実中研)

演題：「洗浄滅菌業務における省エネのご提案」

演者：阿部直人(三浦工業株式会社)

ランチョンセミナー LS-5(協賛企業：株式会社ケー・エー・シー)

5月30日(木) 12:15～13:15 第3会場(みやこめっせ B1F 特別展示場A)

座長：小山公成(株式会社ケー・エー・シー)

演題1：「G0世代ゲノム編集マウスの遺伝型解析」

演者：水野聖哉(筑波大学医学医療系/トランスボーダー医学研究センター/生命科学動物資源センター/
実験動物学研究室)

演題2：「こんなときどうする？サル類の飼育管理FAQ」

演者：橋本直子(京都大学ヒト行動進化研究センター技術部)

ランチョンセミナー LS-6(協賛企業：ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社)

5月30日(木) 12:15～13:15 第4会場(みやこめっせ B1F 大会議室)

座長：丸山滋(ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社)

演題：「病原微生物の検出状況と環境中における細菌の安定性から考える環境サンプルの有用性」

演者：鈴木裕貴(ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社 モニタリングセンター)

ランチョンセミナー LS-7(協賛企業：Avidity Science株式会社)

5月31日(金) 12:15～13:15 第3会場(みやこめっせ B1F 特別展示場A)

座長：杉本良一(Avidity Science株式会社)

演題：「動物福祉のために：給水システムの革新」

演者：マイク・ダグラス(アレントアウン)

示説・討論 奇数：29日(水) 17:30 ~ 18:30

偶数：30日(木) 17:00 ~ 18:00

「管理・施設・倫理・福祉」

P-001 生産性向上に向けた給水瓶の事前準備期間の検討

○野崎 仁美、形山 志歩、西口 美美、平山 剛士、中里 清一
株式会社ケー・エー・シー

P-002 飼育ラックフィルターのホコリ検体を用いた俯瞰的微生物モニタリング検査の有効性

○伊藤 麻里子¹⁾、和家 由依^{2,3)}、森 ララミ¹⁾、丸山 滋⁴⁾、鬼頭 靖司³⁾
¹⁾東海国立大学機構名古屋大学全学技術センター、²⁾東海国立大学機構名古屋大学環境医学研究所、
³⁾東海国立大学機構名古屋大学動物実験支援センター、
⁴⁾ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社

P-003 飼育ラック自動給水配管内の従属栄養細菌数に影響を与える因子についての調査

○坂本 亘¹⁾、中尾 聡宏²⁾、竹尾 透²⁾
¹⁾熊本大学技術部、²⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)資源開発分野

P-004 動物福祉向上に向けた『マウス獣医学的ケア指針』の策定と活用

○杉本 達也¹⁾、金沢 幸¹⁾、日野 雅生²⁾、宇都宮 史人²⁾、新谷 拓也¹⁾
¹⁾塩野義製薬(株)、²⁾シオノギテクノアドバンスリサーチ(株)

P-005 PCR法による微生物モニタリング検査の導入

○永田 大典、後藤 加名、清水 美香、佐加良 英治
兵庫医科大学

P-006 STZ誘発I型糖尿病ブタの飼育管理について

○五十部 大貴、肥高 智成、富田 真一、豊田 祐司、鈴木 裕美、本田 晴哉、
関 あずさ
ハムリー株式会社筑波研究センター試験研究所

P-007 Göttingen Minipig生産場における取り組み —より扱いやすく、広く有効利用される実験動物を目指して—

○清水 悠創、戸塚 理穂、堀江 隼斗、林 直木、山地 洋平、三上 博史
オリエンタル酵母工業株式会社バイオ事業本部MPセンター

P-008 コモンマーモセットにおける血液検査基準値と検査機器

○向笠 圭亮、我妻 亮治、早瀬川 由美、佐々木 絵美、菊池 理加、塚本 晃海、
佐々木 えりか、井上 貴史
公益財団法人実中研

P-009 Correlation between biparietal diameter of fetus and litter size of marmosets in SNUH-MMNC

○Heejin Choi^{1,2)}, Jina Kwak^{1,2)}, Chan-Wook Park¹⁾, Hye Mi Kwon²⁾, Joo-II Kim^{1,2)},
Byeong-Cheol Kang^{1,2)}

¹⁾Seoul National University College of Medicine,

²⁾Biomedical Research Institute, Seoul National University Hospital

P-010 動物実験計画書の審査が動物実験のRefinementに及ぼす効果

○花井 幸次¹⁾、橋本 龍樹^{1,2)}

¹⁾島根大学総合科学研究支援センター実験動物部門、²⁾島根大学医学部看護学科

P-011 Analysis of survey results on animal user education status

Ji-Yeon Hwang¹⁾, ○Jinha Jeon¹⁾, Hwan Kim²⁾, Jungmin Lee³⁾, Jinwook Jang³⁾, Ki Taek Nam⁴⁾,
Ji-Young Kim⁵⁾, Hyunjung Jhun⁶⁾, Jeong-Hwan Che⁷⁾, Ji Min Lee⁸⁾, Byeong-Cheol Kang⁷⁾,
Je Kyung Seong⁸⁾

¹⁾Seoul National University Bundang Hospital, ²⁾Institute for Basic Science, ³⁾Samsung Medical Center,

⁴⁾Yonsei University College of Medicine, ⁵⁾Ewha Womans University, ⁶⁾Korea Food Research Institute,

⁷⁾Seoul National University College of Medicine, ⁸⁾Seoul National University

P-012 LOOK: Laboratory animal veterinarian On-the-job training Of KCLAM

Jungmin Lee¹⁾, ○Young-Shin Joo²⁾, Insook Yang³⁾, Bora Kim⁴⁾, Seung-Yeon Kim⁵⁾, Kyoung-Sun Lee⁶⁾,
Hee Yeon Jeon²⁾, Moon Young Rhyoo⁷⁾, Min-Jeong Go⁷⁾, Eun Kang⁸⁾, Jun Won Park⁸⁾, Jun-Won Yun⁸⁾,
Ki Taek Nam³⁾, Seung Hyun Oh⁸⁾, Je Kyung Seong⁸⁾

¹⁾Samsung Medical Center, ²⁾The Catholic University of Korea, ³⁾Yonsei University College of Medicine,

⁴⁾National Cancer Center, ⁵⁾International Vaccine Institute, ⁶⁾Osong Biomedical Innovation Foundation,

⁷⁾Korea Advanced Institute of Science and Technology, ⁸⁾Seoul National University

P-013 Ethical use of animals in biomedical research in Africa - The case of NMIMR in Ghana

○Samuel Adjei

Department of Animal Experimentation, Noguchi Memorial Institute for Medical Research, University of Ghana

「実験手技・代替・麻酔・鎮痛」

P-014 実験処置に合わせた環境エンリッチメントの適用事例

○西脇 恵¹⁾、荒巻 正樹²⁾

¹⁾日本クレア株式会社富士山生育場、²⁾日本クレア株式会社

P-015 i-GONAD法でのノックインマウス作製におけるホモロジーアームの検討

○高林 秀次、青島 拓也、飯島 健太、辻村 真澄

浜松医科大学光先端医学教育研究センター医用動物資源支援部

P-016 細径内視鏡システムを用いた気管支内移植によるヒト肺腺癌同所性移植モデルの作製

○西中 栄子、西銘 千代子、佐藤 人美、首藤 芙美、望月 美沙、川井 健司、
山本 大地、鈴木 雅実

公益財団法人実中研

P-017 熊本大学CARDにおけるマウス生殖工学技術研修会について

○弟子丸 優果^{1,2)}、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、打越 喜春^{1,2)}、
古上 圭輔^{1,2)}、池田 友貴^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、坂本 亘¹⁾、
土山 修治¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-018 実験動物における新たな安楽死薬の探索—フェノバルビタールとチアミナールの有効性について—

○田熊 究一、若菜 茂晴

神戸医療産業都市推進機構動物実験飼育施設

P-019 シリアンハムスターの生体外における胚操作技術の最適化

○繁田 麻葉、島田 奈浦子、戸部 有紗、井上 健一、阿部 高也、清成 寛

国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター (BDR)

P-020 BIS モニタを用いた家畜ブタの脳波モニタリング

○李 宰勲、小山 朔

テルモ株式会社

P-021 カニクイザルにおける体成分分析装置を用いた新規評価法の樹立

○内田 慎介¹⁾、鯉江 洋¹⁾、中山 駿矢^{1,2)}、伊藤-藤城 康世¹⁾、山海 直²⁾、保富 康宏²⁾、
揚山 直英²⁾

¹⁾日本大学獣医生理学研究室、²⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

「栄養・生理・生化学」

P-022 CByB6F1-Tg (HRAS) 2Jicにおける体重および血液データ解析

○伊藤 美穂¹⁾、下村 千恵¹⁾、奈良部 友紀²⁾、永久保 壘¹⁾、和田 昌浩³⁾、水澤 卓馬³⁾、
保田 昌彦³⁾、半田 昌明¹⁾

¹⁾日本クレア株式会社、²⁾株式会社ジェー・エー・シー、³⁾公益財団法人実中研

P-023 飼料に含まれるたんぱく質の違いが成長へ及ぼす影響についてのマウス、ラット間での比較

○伊藤 雅方

関東学院大学栄養学部

「加齢・老化」

P-024 次世代NOG (NOG-EXL, NOG-ΔMHC, NOG-IL6) マウスにおける生存率と死因の解析

○保田 昌彦¹⁾、小倉 智幸¹⁾、西脇 恵²⁾、何 裕遙¹⁾、鎌井 陽子¹⁾、望月 美沙¹⁾、
高橋 利一¹⁾、川井 健司¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾日本クレア株式会社

P-025 オスのC57BL/6J マウスにおける行動学的・機能的老化

○柳井 修一¹⁾、新崎 智子¹⁾、遠藤 昌吾²⁾

¹⁾東京都健康長寿医療センター研究所実験動物施設、

²⁾東京都健康長寿医療センター研究所老化脳神経科学研究チーム

「脳・神経・行動」

P-026 マウスは隣の飼育ケージにいるマウスを認識

○上野 浩司¹⁾、森 祥子²⁾、北野 絵莉子²⁾、高橋 優²⁾、石原 武士²⁾

¹⁾川崎医療福祉大学医療技術学部臨床検査学科、²⁾川崎医科大学精神科学教室

P-027 アポリポ蛋白E拮抗剤(6KApoEp)を用いたアルツハイマー病の新規治療法

○小山 直基¹⁾、ソーミラー ダレル²⁾、藤原 正和¹⁾、瀬川 辰也³⁾、前田 雅弘³⁾、森 隆¹⁾

¹⁾埼玉医科大学総合医療センター研究部、²⁾南フロリダ大学、³⁾免疫生物研究所

P-028 RBFOX3/NeuN-iCre ノックインマウスの解析

○村田 知弥¹⁾、西野 志保¹⁾、橋本 美涼²⁾、水野 聖哉¹⁾

¹⁾筑波大学医学医療系生命科学動物資源センター、²⁾岐阜大学応用生物科学部

P-029 糖鎖硫酸基転移酵素Chst9欠損マウスは不安様行動の増加と社会的行動の異常を示す

○藤井 一希^{1,2,3)}、泉川 友美⁴⁾、腰高 由美恵²⁾、安達 真由美²⁾、柳橋 裕子²⁾、本郷 翔子²⁾、
吉田 沙織²⁾、安川 二千穂⁵⁾、高雄 啓三^{1,2,3)}

¹⁾富山大学学術研究部医学系行動生理学講座、

²⁾富山大学生命科学先端研究支援ユニット動物実験施設、³⁾富山大学アイドリング脳科学研究センター、

⁴⁾立命館大学薬学部生体分析化学研究室、⁵⁾富山大学理学部自然環境科学科

P-030 神経幹細胞特異的(プロ)レニン受容体欠損マウスは脳発達異常を引き起こす

○橋本 美涼¹⁾、平岡 空馬¹⁾、日比 美咲²⁾、松久保 幸也²⁾、木村 均²⁾、市原 淳弘³⁾、
深水 昭吉⁴⁾、中川 千春¹⁾、中川 寅¹⁾

¹⁾岐阜大学応用生物科学部、²⁾岐阜大学大学院自然科学技術研究科、³⁾東京女子医科大学内科学講座、

⁴⁾筑波大学生存ダイナミクス研究センター

P-031 シアル酸転移酵素ST3Ga4欠損マウスの自発性運動量と情動行動の変化について

井出 尚希¹⁾、○山本 裕大¹⁾、永谷 直久²⁾、中村 勇太²⁾、中谷 敢¹⁾、岡 卓也¹⁾、
加藤 啓子¹⁾

¹⁾京都産業大学生命科学研究科、²⁾京都産業大学先端情報学研究科

P-032 機械学習を応用したマウスのエソグラム自動作成システムの構築

○江上 由美¹⁾、福田 将大¹⁾、岸 拓也¹⁾、森 美聖¹⁾、村田 幸久^{1,2,3)}

¹⁾東京大学大学院農学生命科学研究科食と動物のシステム学研究室、

²⁾東京大学大学院農学生命科学研究科放射線動物科学研究室、

³⁾東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室

P-033 マウス行動表現型に生産方法が及ぼす効果

○山田 郁子、串田 知子、古瀬 民生、田村 勝

理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析技術室

P-034 マウスの左利きと右利きは、味覚嫌悪条件付け試験の結果に影響しない

○草野 蒼太、谷口 万裕、藤平 篤志

日本獣医生命科学大学実験動物学教室

P-035 室内飼育下カニクイザルにおける人工ほ育個体の指しゃぶり行動の発現

○小原 実穂、サビツカ エディタ、山海 直

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

P-036 常設型タッチパネル課題の報酬と位置がマーモセットの行動解析結果へ与える影響

○菊池 理加、塚本 晃海、山崎 万喜、井上 貴史、汲田 和歌子、佐々木 えりか

公益財団法人実中研・マーモセット医学生物学研究部

P-037 FuIMAIを用いた2マーモセット家族における縦断的な3次元トラッキング解析

○塚本 晃海、菊池 理加、山崎 万喜、井上 貴史、佐藤 賢哉、汲田 和歌子、
佐々木 えりか

公益財団法人実中所マーモセット医学生物学研究部

「解剖・組織・病理・病態」

P-038 胚発生におけるガラクトース糖鎖の役割

○李 双、成瀬 智恵、魏 恒、杉原 一司、浅野 雅秀

京都大学大学院医学研究科実験動物学

P-039 マウス全身のエポキシ樹脂標本作製の試み

○青島 拓也、高林 秀次

浜松医科大学先端医学教育研究センター医用動物資源支援部

P-040 術後イレウス (POI) モデルにおけるクエン酸モサブリド・トレハロース併用時の消化管運動機能評価

○藤澤 正彦、小田 朝陽、菅井 和久、袴田 陽二

日本獣医生命科学大学

P-041 実験動物(ニホンザル)の予期しない死亡に対する原因究明の試み(第1報)

○二宮 太平^{1,2)}、磯田 昌岐^{1,2)}、二宮 賢司³⁾

¹⁾生理学研究所システム脳科学研究領域認知行動発達機構研究部門、

²⁾総合研究大学院大学生命科学研究科生理科学専攻、³⁾琉球大学大学院医学研究科法医学講座

「繁殖・系統開発」

P-042 NOG-FcgR KO マウスの背景データ解析

○小倉 智幸¹⁾、西脇 恵²⁾、保田 昌彦¹⁾、水澤 卓馬¹⁾、高倉 彰¹⁾、高橋 利一¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾日本クレア株式会社

P-043 C57BL/6NJcl コロニーから見出された新規ヘアレスマウスの原因遺伝子同定と表現型解析

○大羽 沙弥佳¹⁾、伊藤 祥信¹⁾、半田 昌明¹⁾、田村 勝²⁾

¹⁾日本クレア株式会社、²⁾理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析技術室

P-044 NOG-hIL-6 Tg マウスの52週齢時における背景データ解析

○何 裕遥¹⁾、西脇 恵²⁾、三村 卓²⁾、山口 貴弘²⁾、小倉 智幸¹⁾、保田 昌彦¹⁾、高倉 彰¹⁾、
高橋 利一¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾日本クレア株式会社

P-045 NOG-EXL マウスの52週齢時における背景データ解析

○三村 卓¹⁾、西脇 恵¹⁾、山口 貴弘¹⁾、何 裕遥²⁾、小倉 智幸²⁾、保田 昌彦²⁾、高倉 彰²⁾、高橋 利一²⁾

¹⁾日本クレア株式会社富士山生育場、²⁾公益財団法人実験動物中央研究所

P-046 各種マウス系統の二細胞期胚を用いた凍結保存における生存率および産子への発生率

○打越 喜春¹⁾、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、池田 友貴^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)資源開発分野、²⁾九動株式会社、³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)生殖工学共同研究分野

P-047 排卵後交配により作製したマウス受精卵の凍結保存および個体作製

○坂口 摩姫^{1,2)}、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、池田 友貴^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)資源開発分野、²⁾九動株式会社、³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)生殖工学共同研究分野

P-048 NOG-Δ MHC マウスの52週齢時における背景データ解析

○山口 貴弘¹⁾、西脇 恵¹⁾、三村 卓¹⁾、何 裕遥²⁾、小倉 智幸²⁾、保田 昌彦²⁾、高倉 彰²⁾、高橋 利一²⁾

¹⁾日本クレア株式会社富士山生育場、²⁾公益財団法人実中研

P-049 CRISPR/Cas9法を用いたHnrnpabコンディショナルノックアウトマウスの作製及びその解析

○鈴木 りん、小田 佳奈子、笹岡 俊邦、福田 七穂

新潟大学脳研究所

P-050 室内個別飼育カニクイザルにおける繁殖特性の解析

○下澤 律浩

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

P-051 マーモセット新生仔に対する混合授乳の試み

○山田 祐子¹⁾、富樫 充良¹⁾、澤田 賀久^{1,2)}、青山 真依¹⁾、星 純子¹⁾、井上 貴史¹⁾、黒滝 陽子¹⁾、佐々木 えりか¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾株式会社ジェー・エー・シー

P-052 コモンマーモセットコロニーの遺伝的多様性維持のための国際的な取り組み

○黒滝 陽子¹⁾、山田 祐子¹⁾、Lisa Zhang²⁾、辰本 将司³⁾、志賀 範子¹⁾、富樫 充良¹⁾、澤田 賀久^{1,4)}、岸本 恵子¹⁾、Milton Herrera²⁾、Julie Brent²⁾、Sang Su Oh²⁾、井上 貴史¹⁾、郷 康広¹⁾、Heather Narver^{3,5,6)}、佐々木 えりか¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾NIH/NINDS、³⁾自然科学研究機構生命創成探究センター、⁴⁾株式会社ジェー・エー・シー、⁵⁾兵庫県立大学大学院情報科学研究科、⁶⁾自然科学研究機構生理学研究所

「発生工学(再生医療を含む)」

P-053 経胎盤移植法とRUNX1欠損を用いた放射線処置なしのヒト化マウスの開発

○廖 晉緯¹⁾、全 孝静³⁾、脇本 新^{1,2)}、濱田 理人¹⁾、高橋 智¹⁾

¹⁾筑波大学医学医療系解剖学発生学研究室、

²⁾筑波大学人間総合科学ヒューマンバイオロジー学位プログラム、

³⁾東京大学医科学研究所幹細胞生物学分野

P-054 マウスにおけるゲノム編集効率に影響を与える要因の効率的な評価システムの構築とその応用

○坂井 勇介¹⁾、岡部 百合¹⁾、板井 元^{2,3)}、佐藤 貴弘⁴⁾、塩澤 誠司^{1,2)}

¹⁾久留米大学医学部疾患モデル研究センター、²⁾慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター、

³⁾株式会社JAC、⁴⁾久留米大学分子生命科学研究所遺伝情報研究部門

P-055 *In vivo*機能解析を標的としたScKiP法の有用性の検討

○康 宇鎮¹⁾、岡村 永一²⁾、松本 翔馬²⁾、依馬 正次²⁾、高橋 智¹⁾、水野 聖哉¹⁾

¹⁾筑波大学医学医療系・トランスボーダー医学研究センター・生命科学動物資源センター、

²⁾滋賀医科大学動物生命科学センター

P-056 High development efficiency of mouse embryos cloned from EB3 embryonic stem cells

○Quoc Dinh Pham^{1,2)}、Van Thuan Nguyen²⁾、Kimiko Inoue^{1,3)}、Atsuo Ogura^{1,3)}

¹⁾BioResource Research Center, RIKEN,

²⁾School of Biotechnology, International University, Vietnam National University-HCMC,

³⁾Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba

P-057 マウスクローン胚の胎盤幹細胞でみられる上皮間葉転換の亢進

○的場 章悟^{1,2)}、内田 あや¹⁾、廣瀬 美智子¹⁾、杉本 道彦¹⁾、趙 杜善¹⁾、七野 成之³⁾、
松島 綱治³⁾、阿部 訓也¹⁾、小倉 淳郎^{1,4)}

¹⁾理化学研究所バイオリソース研究センター、²⁾農工大、³⁾東京理科大、⁴⁾理研CPR

P-058 細胞透過性のない双性イオン液体を用いたマウス初期胚凍結保存の検討

○神村 栄吉¹⁾、島津 美幸¹⁾、豊田 夏美¹⁾、平田 英周²⁾、黒田 浩介³⁾、大黒 多希子¹⁾

¹⁾金沢大学疾患モデル総合研究センター、²⁾金沢大学がん進展制御研究所、³⁾金沢大学生命理工学系

P-059 野生由来マウスJF1系統の未受精卵および精子の凍結保存

○長谷川 歩未、持田 慶司、小倉 淳郎

理研バイオリソース研究センター

P-060 肝臓特異的ノックダウンマウス作製システムの確立と糖代謝関連遺伝子解析への応用

○三浦 浩美、大塚 正人

東海大学医学部

P-061 マウス卵子の透明帯中チオール基量および形態に対するGSHおよびTCEPの影響

○石東 祐太^{1,4)}、上迫 努¹⁾、齋藤 翼²⁾、佐藤 渚^{1,3)}、中尾 聡宏⁴⁾、竹尾 透⁴⁾、石崎 宏好¹⁾

¹⁾株式会社カン研究所、²⁾株式会社サンプラネット、³⁾株式会社ワールドインテックRD、

⁴⁾熊本大学生命資源研究・支援センター資源開発分野

P-062 BSA含有TYH培地GV期卵子の核成熟および胚発生に与える影響

○田中 万柚子¹⁾、由良 晶子¹⁾、安齋 政幸²⁾

¹⁾近畿大学大学院生物理工学研究科、²⁾近畿大学先端技術総合研究所

P-063 ゲノム編集によるノックインマウス作製時に生じた、オンターゲット部位の多様な変異とその次世代伝達

○五十嵐 智女¹⁾、安彦 行人²⁾、小野 竜一¹⁾、高橋 雄¹⁾、桑形 麻樹子¹⁾、北嶋 聡¹⁾

¹⁾国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター・毒性部、

²⁾国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター・薬理部

P-064 ゲノム編集マウスの作製—超過剰排卵誘起雌マウスの排卵タイミングを考慮した交配受精卵の利用—

○中川 佳子¹⁾、佐久間 哲史²⁾、坂本 亘¹⁾、中村 智^{1,3)}、山下 紀代子^{1,3)}、坂口 摩姫^{1,3)}、
弟子丸 優果^{1,3)}、打越 喜春^{1,3)}、古上 圭輔^{1,3)}、池田 友貴^{1,3)}、高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、
山本 卓²⁾、中潟 直己⁴⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)資源開発分野、

²⁾広島大学大学院統合生命科学研究科、³⁾九動株式会社、

⁴⁾熊本大学生命資源研究・支援センター(CARD)生殖工学共同研究分野

P-065 日本クレア(株)における生殖工学技術の改良とその成果について

○杉山 卓郎

日本クレア株式会社技術部BS移植課

P-066 単一胚RNA-seq解析を用いたマウスROSI胚における発生能および遺伝子発現の操作者間の差異

○時田 駿^{1,2)}、四方 大樹¹⁾、越後貫 成美¹⁾、井上 貴美子^{1,2)}、小倉 淳郎^{1,2,3)}

¹⁾理化学研究所バイオリソース研究センター、²⁾筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群、

³⁾理化学研究所開拓研究本部

P-067 Nanos3 および Dazl の発現を可視化するレポーターラットを用いた雄性生殖細胞発生の解析

○小林 俊寛¹⁾、齊藤 聖¹⁾、山内 恵子²⁾、西岡 和美²⁾、山本 拓也³⁾、小林 久人⁴⁾、
栗本 一基⁴⁾、平林 真澄²⁾

¹⁾東京大学医科学研究所、²⁾生理学研究所、³⁾京都大学iPS細胞研究所、⁴⁾奈良県立医科大学

P-068 精管結紮雄を用いないマウス・ラット人工偽妊娠誘起法(EGET)の実用化

○金子 武人^{1,2)}、遠藤 茉里奈¹⁾、和家 由依¹⁾、角田 繁巳³⁾、俵 博祐³⁾、中川 優貴²⁾、
安部 寿幸³⁾、佐々木 淳一³⁾、永井 類⁴⁾、小川 哲平⁴⁾、夏目 知佳子⁴⁾、外尾 亮治³⁾

¹⁾岩手大学大学院総合科学研究科、²⁾岩手大学理工学部、³⁾動物繁殖研究所、⁴⁾夏目製作所

P-069 最小容量ガラス化法と急速融解によるLong-Evans, SDおよびF344系統ラット1細胞期胚ガラス化保存法の開発

○関 信輔¹⁾、川辺 敏晃²⁾、小畑 孝弘¹⁾、東谷 美沙子¹⁾、矢野 愛美¹⁾、及川 剛宗¹⁾、
山崎 渉¹⁾、江藤 智生³⁾

¹⁾秋田大学バイオサイエンス教育・研究サポートセンター、²⁾アーク・リソース株式会社、

³⁾実験動物中央研究所生殖工学研究室

P-070 深層学習によるラット着床前胚の形態的分類

○中村 和臣¹⁾、妹尾 美砂子²⁾

¹⁾鳥取大学医学部附属病院新規医療研究推進センター、²⁾鳥取大学研究推進機構先進医療研究センター

P-071 胚盤胞補完法を用いた遺伝子改変ラット作製汎用化技術の開発

○夏目 里恵¹⁾、竹鶴 裕亮^{1,2)}、中務 胞¹⁾、崎村 建司¹⁾、阿部 学¹⁾

¹⁾新潟大学脳研究所、²⁾東京大学医科学研究所先進動物ゲノム研究分野

P-072 シリアンハムスター精子の凍結保存と体外受精の試み

○持田 慶司、長谷川 歩未、廣瀬 美智子、小倉 淳郎
理研バイオリソース研究センター

「遺伝・育種・遺伝子機能」

P-073 ATF6 β 欠損マウスが示す多動表現型と横隔膜ヘルニア

○赤井 良子¹⁾、濱嶋 尚代¹⁾、岩脇 隆夫^{1,2)}
¹⁾金沢医科大学総合医学研究所、²⁾金沢医科大学病院睡眠医学センター

P-074 精子膜タンパク質TEX46は精子頭部形成と透明帯通過に必須である

○芳賀 紗緒里¹⁾、宮田 治彦²⁾、Ferheen Abbasi²⁾、Tamara Larasati²⁾、野澤 香織^{1,3)}、
Zhifeng Yu³⁾、伊川 正人²⁾、Martin Matzuk³⁾、藤原 祥高^{1,2,3)}
¹⁾国立循環器病研究センター、²⁾大阪大学微生物病研究所、³⁾バイラー医科大学創薬センター

P-075 Hnrnpa0遺伝子欠損マウスの心臓機能の解析

○小山 隼¹⁾、三上 夏輝²⁾、村田 知弥³⁾、水野 聖哉³⁾
¹⁾筑波大学人間総合科学研究学群フロンティア医科学学位プログラム、
²⁾筑波大学人間総合科学研究学群ヒューマンバイオロジー学位プログラム、³⁾筑波大学医学医療系

P-076 Recql5遺伝子を活用したマウス前立腺／子宮の効率的な染色体編集

○岩田 悟¹⁾、井戸 理沙子²⁾、岩本 隆司^{1,2)}
¹⁾中部大学実験動物教育研究センター、²⁾中部大学生命健康科学部生命医科学科、

P-077 マウスゲノムにおいて外来遺伝子発現に適した新たなSafe harborの探索と置換システムの構築

○徳安 碧、古畑 理樹、吉信 公美子、荒木 正健、荒木 喜美
熊本大学生命資源研究・支援センター

P-078 Fgf5^{go-malc}の皮膚組織において被毛長に性差を示す遺伝子のRNA-Seq解析による同定

○高橋 諒¹⁾、輿石 雄一²⁾、高橋 剛³⁾、亀山 祐一¹⁾、佐藤 正宏⁴⁾、大塚 正人⁵⁾、
和田 健太¹⁾
¹⁾東京農業大学大学院生物産業学研究科、²⁾東京農大生物資源ゲノム解析センター、
³⁾東京都医学総合研究所再生医療プロジェクト、⁴⁾国立成育医療研究センターゲノム医療研究部、
⁵⁾東海大学医学部

P-079 精子無力症の新規原因遺伝子Gm614の機能解析

○谷川 亜里紗、宮坂 佳樹、徳永 友子、西村 愛美、中尾 和貴
大阪大学医学部附属動物実験施設

P-080 能動的従順性の選択交配マウスでみられる高い社会性行動と脳機能との関連

Bharathi Venkatachalam^{1,2)}、根本 真央³⁾、霜田 靖³⁾、Bhim Biswa^{1,2)}、○小出 剛^{1,2)}
¹⁾国立遺伝学研究所マウス開発研究室、²⁾総合研究大学院大学遺伝学コース、³⁾長岡技術科学大学

P-081 (KFRS4 × F344) F2産子を用いたアトピー性皮膚炎遺伝子座の探索

○城戸 美紀¹⁾、中村 友香¹⁾、ホアン ヒエウ¹⁾、輿石 雄一²⁾、庫本 高志¹⁾
¹⁾東京農業大学農学部動物科学科、²⁾東京農業大学生物資源ゲノム解析センター

「薬理・安全性」

P-082 超音波検査によるマウス消化管運動の非侵襲的定量解析法の開発とその応用

○岸 和寿¹⁾、梶 典幸²⁾、水流 功春³⁾、堀 正敏¹⁾

¹⁾東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室、²⁾麻布大学獣医学部薬理学研究室、
³⁾プライムテック株式会社

P-083 NOG-TKmut30 マウスの各組織におけるチトクロム P450 分子種の mRNA 発現量とその性差

○上原 正太郎、樋口 裕一郎、米田 直央、末水 洋志

公益財団法人実験動物中央研究所

P-084 Therapeutic extracellular vesicles for acute kidney injury

Sungok Hong¹⁾, Hongduk Kim¹⁾, Ran Kim^{1,2)}, ○Tae Min Kim^{1,2)}

¹⁾Institutes of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University,

²⁾Graduate School of International Agricultural Technology, Seoul National University

P-085 ラット経口投与におけるミニカプセルの素材が血中濃度に及ぼす影響

○河原 礼史、田中 祥之

沢井製薬株式会社

P-086 Sugen/Hypoxia モデルに対するエンドセリン受容体拮抗薬と PDE5 阻害薬の効果

○堤 宏禎、高御堂 大慈、下平 龍太郎、村井 隆、大塚 茉依、大熊 健司、
池野 明久

株式会社ケー・エー・シー

P-087 Toxicological assessment of IV-Infused human adipose-derived mesenchymal stem cells in SCID rat

○Joo-Il Kim^{1,2)}, Euna Kwon²⁾, Tomoji Mashimo³⁾, Byeong-Choel Kang^{1,2)}

¹⁾Graduate School of Translational Medicine, Seoul National University College of Medicine, Seoul, Korea,

²⁾Department of Experimental Animal Research, Biomedical Research Institute, Seoul National Univ. Hospital, Seoul, Korea,

³⁾Division of Animal Genetics, Laboratory Animal Research Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Minato-ku, Tokyo, Japan

P-088 RhoGTPase 活性を予測する人工知能の開発

○佐々木 隼人、吉村 優里、嶋田 修二、佐々木 宣哉

北里大学獣医学部

「微生物・感染・免疫」

P-089 常在細菌叢非依存的に補体 C3 欠損マウスはイミキモド誘導乾癬が増悪化する

○村山 正承

関西医科大学附属生命医学研究所モデル動物部門

P-090 次世代 NOG 系統における経時的な糞便細菌叢解析

○野津 量子¹⁾、山口 貴弘²⁾、三村 卓²⁾、西脇 恵²⁾、小倉 智幸¹⁾、高橋 利一¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研、²⁾日本クレア株式会社富士山生育場

P-091 実験動物における CHROMagar™ Pasteurella 培地を用いたパスツレラ科菌検出の検討

○森田 華子、富山 友里奈、田中 舞、林元 展人

公益財団法人実中研 ICLAS モニタリングセンター

P-092 無菌動物を用いた *Corynebacterium bovis* の病態解明を目的とした感染実験

○富山 友里奈¹⁾、森田 華子¹⁾、田中 舞¹⁾、保田 昌彦²⁾、富山 香代³⁾、林元 展人¹⁾

¹⁾公益財団法人実中研 ICLAS モニタリングセンター、²⁾公益財団法人実中研病理解析センター、

³⁾公益財団法人実中研動物資源技術センター

P-093 *Rodentibacter heyltii* の PCR 検査における口腔スワブ・糞便サンプルの有用性の検討

○田中 舞、山本 真史、森田 華子、富山 友里奈、石田 智子、林元 展人

(公財)実中研 ICLAS モニタリングセンター

P-094 CD28 シグナル依存的な T 細胞の活性化を制御する低分子化合物の機能評価

○小川 修平¹⁾、浅輪 泰允³⁾、邵 玉淨³⁾、吉森 篤史⁴⁾、中村 浩之³⁾、織田 昌幸²⁾

¹⁾東京理科大学生命医科学研究科融合研究推進部門、²⁾京都府立大学大学院生命環境科学研究科、

³⁾東京工業大学科学技術創成研究院、⁴⁾株式会社理論創薬研究所

P-095 マウスを用いた定着性改変大腸菌の腸管内分布の解析

○橋 毅¹⁾、田中 優¹⁾、中島 満幸¹⁾、浅井 健宏¹⁾、南 篤²⁾、田川 陽一³⁾、水流 功春⁴⁾、
藤井 渉^{1,5)}、久和 茂^{1,5)}、葛山 智久^{2,6)}、小川 哲弘^{2,6)}、角田 茂^{1,5,6)}

¹⁾東京大学大学院農学生命科学研究科実験動物学研究室、

²⁾東京大学大学院農学生命科学研究科分子育種学研究室、³⁾東京工業大学生命理工学院、

⁴⁾プライムテック株式会社、⁵⁾東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター、

⁶⁾東京大学大学微生物科学イノベーション連携研究機構

P-096 飼育下の野生由来ハタネズミで検出された *Filobacterium rodentium*

○梶田 亜矢子¹⁾、小久保 年章²⁾、目加田 和之³⁾、吉木 淳¹⁾、池 郁生¹⁾

¹⁾理研 BRC、²⁾量研機構、³⁾岡山理科大

P-097 Bacterial monitoring status of Seoul National University Hospital Marmoset Model Network Center

○Jina Kwak^{1,2,3)}、Hye Mi Kwon^{2,3)}、Heejin Choi^{1,2,3)}、Byeong-Cheol Kang^{1,2,3)}

¹⁾Graduate School of Translational Medicine, Seoul National University College of Medicine,

²⁾Department of Experimental Animal Research, Biomedical Research Institute, Seoul National University Hospital,

³⁾Seoul National University Marmoset Model Network Center, Seoul National University Hospital

P-098 輸入カニクイザルから分離したアデノウイルスの性状解析

○酒井 宏治^{1,2)}

¹⁾国立感染症研究所、²⁾東京農工大学

「疾患モデル」

P-099 サリドマイド誘導体依存的な PD-1 ノックダウンにより生体でのがん増殖が抑制される

○成瀬 智恵¹⁾、石橋 旺士郎¹⁾、大串 雅俊²⁾、西内 巧³⁾、今井 宏彦⁴⁾、杉山 文博⁵⁾、
浅野 雅秀¹⁾

¹⁾京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設、²⁾京都大学医生物学研究所発生システム制御分野、

³⁾金沢大学疾患モデル総合研究センター研究基盤支援施設疾患オミクス解析分野、

⁴⁾京都大学大学院情報学研究科情報学専攻システム情報論講座、⁵⁾筑波大学生命科学動物資源センター

P-100 日本クレア生産の筋ジストロフィーモデルC57BL/10-mdx/Jcl (B10-mdx) マウスにおける背景データ解析

○下村 千恵¹⁾、伊藤 美穂¹⁾、永久保 壘¹⁾、奈良部 友紀²⁾、水澤 卓馬³⁾、保田 昌彦³⁾、
加藤 利幸¹⁾、半田 昌明¹⁾

¹⁾日本クレア株式会社、²⁾株式会社ジェー・エー・シー、³⁾公益財団法人実中研

P-101 非古典的な翻訳開始機構は周産期における母体循環器系機能の維持に寄与する

○浅井 健宏^{1,2)}、南 篤³⁾、水流 功春⁴⁾、関口 茉莉恵¹⁾、島野 翔太郎¹⁾、栃内 亮太¹⁾、
富安 博隆¹⁾、チェンバーズ ジェームズ¹⁾、内田 和幸¹⁾、藤井 渉^{1,2)}、葛山 智久^{3,5)}、
久和 茂^{1,6)}、小川 哲弘^{3,5)}、角田 茂^{1,2,5)}

¹⁾東大院・農・獣医、²⁾東大院・農・応動、³⁾東大院・農・応生工、⁴⁾プライムテック、⁵⁾東大・CRIM、
⁶⁾東大院・農・食の安全

P-102 雄性BALB.NTC-Cpox^{ncf} マウスはNASH様肝病態と肝癌を自然発症する

○森 政之¹⁾、元 暁静¹⁾、代 健¹⁾、宮原 大貴¹⁾、樋口 京一^{1,2)}

¹⁾信州大学学術研究院バイオメディカル研究所ニューロヘルスイノベーション部門、
²⁾名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科

P-103 CRISPR/Cas9を用いたp63遺伝子変異導入による外胚葉異形成症モデルの解析

○鈴木 大介¹⁾、山本 純也¹⁾、堀川 陽子¹⁾、後藤 元人²⁾、高橋 利一²⁾、伊藤 亮治²⁾、
伊藤 典彦³⁾、根尾 櫻子⁴⁾

¹⁾神戸学院大学栄養学部、²⁾実験動物中央研究所、³⁾鳥取大学農学部附属動物医療センター、
⁴⁾麻布大学獣医学部獣医学科臨床診断学

P-104 Experimental animal models for non-alcoholic steatohepatitis, fibrosis, and liver cancer in mice

○Soo-Won Yun, Ji-su Park, Seungwoo Lee, Min Kyung Seo, Hyung Hwa Choi, Jae Won Lee,
Jong Kwon Lee

Laboratory Animal Resources Division, National Institute of Food and Drug Safety Evaluation (NIFDS)

P-105 Development of atopic dermatitis-like skin inflammation in CD4⁺ T cell-cloned mice

○Uyanga Enkhbaatar¹⁾, Kento Miura¹⁾, Norimasa Yamasaki¹⁾, Kimiko Inoue^{2,3)}, Atsuo Ogura^{2,3)},
Osamu Kaminuma¹⁾

¹⁾Department of Disease Model, Research Institute of Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University,
²⁾RIKEN BioResource Research Center, ³⁾Graduate School of Science and Technology, University of Tsukuba

P-106 Effects of topical anti-allergy drugs on a murine model of Th17 cell-mediated skin inflammation

○Fatemeh Mirkatouli, Yukiko Tao, Kento Miura, Uyanga Enkhbaatar, Norimasa Yamasaki,
Naoto Uda, Sawako Ogata, Osamu Kaminuma

Department of Disease Model, Research Institute of Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University

P-107 マウスを用いたハリナシバチ由来プロポリスの抗癌剤誘導脱毛に対する有用性の検討

○Jonna Rose Maniwang¹⁾、湯 玉蘭^{1,2)}、王 辰^{1,2)}、Mark Joseph Desamero^{1,3,4)}、藤井 渉^{1,5)}、
Eerdunfu Eerdunfu¹⁾、チェンバーズ ジェームズ⁶⁾、内田 和幸⁶⁾、小南 友里⁷⁾、潮 秀樹⁷⁾、
Cleofas Cervancia^{4,8)}、Maria Amelita Estacio^{3,4)}、久和 茂^{1,5)}、角田 茂^{1,5,9)}

¹⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科実験動物学研究室、

²⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻、

³⁾ Department of Basic Veterinary Science, College of Veterinary Medicine, University of Philippines Los Banos、

⁴⁾ UPLB Bee Program, University of Philippines Los Banos、

⁵⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター、

⁶⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医病理学研究室、

⁷⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科水産化学研究室、

⁸⁾ Institution of Biological Sciences, College of Arts and Sciences, University of Philippines Los Banos、

⁹⁾ 東京大学微生物科学イノベーション連携研究機構

P-108 難病マウスライブラリの構築：その2、嚢胞腎関連遺伝子ノックアウトマウス

○鈴木 治、小浦 美奈子、内尾 こずえ、佐々木 光穂、土井 悠子、鎌田 春彦
医薬健栄研・疾患モデル

P-109 筋強直性ジストロフィー1型疾患モデルの開発および特性評価

○宗 庭羽¹⁾、Di Zhao¹⁾、石田 紗恵子¹⁾、宮井 尊史²⁾、真下 知士¹⁾

¹⁾ 東京大学医科学研究所実験動物研究施設先進動物ゲノム研究分野、²⁾ 東京大学医学部眼科学教室

P-110 高アンドロゲン血症がihsマウスのインスリン分泌へ与える影響

○中野 堅太¹⁾、清水 有紀子¹⁾、新井 哲也¹⁾、佐々木 宣哉²⁾、岡村 匡史¹⁾

¹⁾ 国立国際医療研究センター研究所動物実験施設、²⁾ 北里大学獣医学部実験動物学研究室

P-111 プロゲステロンによるPC3(ヒト前立腺癌)の抗腫瘍効果の解析

○星野 優希¹⁾、大島 志乃¹⁾、山田 壮我¹⁾、尾上 潮音¹⁾、三川 ヒメリ¹⁾、津田 万里³⁾、
柏木 寛史⁴⁾、安田 敦⁵⁾、關 敏郎⁵⁾、伊藤 良治²⁾、石本 人士⁴⁾、椎名 隆¹⁾、
亀谷 美恵¹⁾

¹⁾ 東海大学医学部分子生命科学、²⁾ 実験動物中央研究所動物応用研究部ヒト疾患モデル研究室、

³⁾ 東海大学緩和医療科学、⁴⁾ 東海大学医学部産婦人科学、⁵⁾ 東海大学医学部腎内分泌代謝内科

P-112 低分化細胞由来細胞外小胞の転移抑制効果におけるmiRNAの解析

○斉藤 美佳子¹⁾、片山 乃天¹⁾、中野 美怜¹⁾、田村 明日香¹⁾、長澤 翼²⁾

¹⁾ 東京農工大学生命工学専攻、²⁾ (株)アニマルケア

P-113 雄特異的円錐角膜を発症するSKCマウスの表現型および責任遺伝子座

○永島 怜¹⁾、赤嶺 圭哉²⁾、高橋 亜希¹⁾、松島 芳文³⁾、和田 健太^{1,2)}

¹⁾ 東京農業大学大学院生物産業学研究科、²⁾ 東京農業大学生物産業学部、³⁾ 日本薬科大学

P-114 食塩負荷SHRにおけるキヌレン酸のストレスマーカーとしての評価

○川上 浩平¹⁾、山田 和夫²⁾、松尾 裕之¹⁾、松本 健一³⁾

¹⁾ 島根大学総合科学研究支援センター実験動物部門、²⁾ 島根大学医学部法医学、

³⁾ 島根大学総合科学研究支援センター生体情報・RI実験部門

P-115 2種類の織毛病モデル動物を用いた多発性嚢胞腎におけるトリプトファン代謝産物の解析

○釘田 雅則、熊本 海生航、吉村 文、白水 貴大、長尾 静子

藤田医科大学病態モデル先端医学研究センター

P-116 Mocos ノックアウトラットを用いたキサンチン尿症モデルの開発

○浦崎 真央¹⁾、吉田 緋里¹⁾、ホアン ヒエウ¹⁾、服部 晃佑²⁾、真下 知士²⁾、庫本 高志¹⁾
¹⁾東京農業大学農学部動物科学科、²⁾東京大学医科学研究所先進動物ゲノム

P-117 改良型バルクセグリグンド解析を用いた動的振戦ラットの原因遺伝子の同定

○清水 有紀子¹⁾、中野 堅太¹⁾、新井 哲也¹⁾、岡村 匡史¹⁾
¹⁾国立国際医療研究センター研究所動物実験施設、²⁾順天堂大学医学部小児科

P-118 Integrated transcriptomic analysis reveals unique NASH progression in Leptin deficient rats

○Haojie Chen¹⁾, Ping Lu²⁾, Cizhong Jiang²⁾, Xianmin Zhu³⁾
¹⁾National Center for Protein Science Shanghai (NCPSS), ²⁾Tongji University School of Medicine,
³⁾Shanghai Institute for Advanced Immunochemical Studies, ShanghaiTech University

P-119 スナネズミの血液凝固特性に関する研究

○小田 朝陽、菅井 和久、藤澤 正彦、袴田 陽二
日本獣医生命科学大学獣医学部獣医保健看護学科

P-120 IRS2 ノックアウトハムスターの作出と解析

○廣瀬 美智子¹⁾、井上 貴美子^{1,5)}、的場 章悟¹⁾、建部 貴輝^{1,5)}、時田 駿^{1,5)}、
百々 由希子¹⁾、富島 俊子¹⁾、長谷川 歩未¹⁾、本多 新²⁾、尾崎 真央¹⁾、篠木 晶子¹⁾、
柳沢 僚子¹⁾、稲垣 暢也^{3,4)}、田村 勝¹⁾、小倉 淳郎^{1,5)}
¹⁾理研BRC、²⁾自治医科大、³⁾京都大、⁴⁾(公財)田附興風会医学研究所北野病院、
⁵⁾筑波大学・生命環境

P-121 カニクイザルにおける子宮内膜症モデルの作出と新規治療戦略

○山海 直¹⁾、西本(垣内) 綾子²⁾、佐藤 和泉²⁾、谷村 博美²⁾、加藤 淳彦²⁾、小原 実穂¹⁾、
今野 良³⁾
¹⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター、²⁾中外製薬株式会社、
³⁾自治医科大学附属さいたま医療センター

P-122 Fibroscan を用いたカニクイザル肝硬変モデルの病態評価

○日比野 功哉¹⁾、鯉江 洋¹⁾、酒井 克也³⁾、長船 健二⁴⁾、安田 勝太郎⁴⁾、中山 俊也^{1,2)}、
山海 直²⁾、保富 康宏²⁾、揚山 直英²⁾
¹⁾日本大学獣医生理学研究室、²⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター、
³⁾金沢大学がん進展制御研究所、⁴⁾京都大学iPS細胞研究所

P-123 ニホンザルにおける肥大型心筋症の家系および関連遺伝子に関する解析

○澤田 悠斗¹⁾、兼子 明久²⁾、鯉江 洋³⁾、中山 駿矢³⁾、岡本 宗裕²⁾、郷 康広⁴⁾、
辰本 将司⁴⁾、塚本 篤士¹⁾、中村 紳一郎¹⁾、宮部 貴子²⁾、揚山 直英⁵⁾
¹⁾麻布大学実験動物学研究室、²⁾京都大学ヒト行動進化研究センター、³⁾日本大学獣医生理学研究室、
⁴⁾自然科学研究機構生命創成探究センター認知ゲノム研究グループ、
⁵⁾医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター

「バイオリソース」

P-124 異なる発光スペクトルを持つCre依存発光レポーターマウスの開発と*in vivo*発光イメージング

○仲柴 俊昭¹⁾、小江 克典²⁾、岩野 智^{3,5)}、杉山 崇²⁾、水野 沙織¹⁾、中島 謙一¹⁾、
水野 聖哉⁴⁾、杉山 文博⁴⁾、吉木 淳¹⁾、宮脇 敦史⁵⁾、阿部 訓也¹⁾

¹⁾理化学研究所バイオリソース研究センター、²⁾オリンパス、³⁾宮崎大学、⁴⁾筑波大学、

⁵⁾理化学研究所脳神経科学研究センター

P-125 熊本大学生命資源研究・支援センターにおける有償マウスバンクおよびマウス受託飼育支援システム

○坂口 香織¹⁾、高橋 郁¹⁾、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、
打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、池田 友貴^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、土山 修治¹⁾、坂本 亘¹⁾、
中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-126 理研BRCで実施しているマウスリソース遺伝品質検査

○水野 沙織、中田 初美、橋本 知美、吉木 淳

理化学研究所バイオリソース研究センター実験動物開発室

P-127 排卵と交配タイミングの同期化によるマウス生体内由来前核期受精卵の効率的な作製法

○中尾 聡宏¹⁾、伊藤 琴乃¹⁾、須賀原 千明¹⁾、中潟 直己²⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、

²⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-128 熊本大学CARDマウスバンクにおける公開マウス胚/精子バンクシステム

○高橋 郁¹⁾、坂口 香織¹⁾、中村 智^{1,2)}、山下 紀代子^{1,2)}、坂口 摩姫^{1,2)}、弟子丸 優果^{1,2)}、
打越 喜春^{1,2)}、古上 圭輔^{1,2)}、池田 友貴^{1,2)}、三小田 伸之^{2,3)}、坂本 亘¹⁾、土山 修治¹⁾、
中尾 聡宏¹⁾、中川 佳子¹⁾、中潟 直己³⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、²⁾九動株式会社、

³⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野

P-129 理研BRCバイオリソース検索における新機能の紹介「詳細な条件で検索可能なAdvanced Search」

○臼田 大輝、櫛田 達矢、梶屋 啓志

理化学研究所バイオリソース研究センター

P-130 近交系マウスの血液表現型解析および系統間比較

○尾崎 真央、篠木 晶子、柳沢 僚子、田村 勝

理化学研究所バイオリソース研究センターマウス表現型解析技術室

P-131 ラット精子の冷蔵保存におけるM2メEDIUMの有用性

○山鹿 優真¹⁾、中尾 聡宏¹⁾、三小田 伸之^{2,3)}、中潟 直己²⁾、竹尾 透¹⁾

¹⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 資源開発分野、

²⁾熊本大学生命資源研究・支援センター (CARD) 生殖工学共同研究分野、³⁾九動株式会社

P-132 ラット研究を促進するリソース事業とモデル動物作製支援—NBRP-RatとAdAMS

○服部 晃佑¹⁾、石田 紗恵子¹⁾、竹鶴 裕亮¹⁾、山内 祐子¹⁾、飯田 龍哉¹⁾、吉見 一人^{1,2)}、
真下 知士^{1,2)}

¹⁾東京大学医科学研究所実験動物研究施設先進動物ゲノム研究分野、

²⁾東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センターゲノム編集研究分野

P-133 Korean Laboratory Animal Resources Bank - NonHuman Primates Bioresources Center (KNHPBRC)

○Euna Kwon¹⁾, Jina Kwak^{1,2)}, Shin Hye Kwak¹⁾, Yoonmi Hwang¹⁾, Rok Won Heo³⁾, Jong Kwon Lee³⁾,
Byeong-Cheol Kang^{1,2)}

¹⁾Biomedical Research Institute, Seoul National University Hospital,

²⁾Seoul National University College of Medicine, ³⁾National Institute of Food and Drug Safety Evaluation

「その他の分類」

P-134 Target-AIDによる多重KOマウス作製デザインを自動化するKOnezumi-AIDの開発

○滝 大斗¹⁾、久野 朗広²⁾、森本 健斗¹⁾、水野 聖哉^{1,3)}

¹⁾筑波大学実験動物学研究室、²⁾筑波大学医学医療系解剖学発生学研究室、

³⁾筑波大学トランスポーター医学研究センター

P-135 フルオレセイン角膜生体染色を用いた離乳後Kbl:NZWウサギにおける角膜受傷の傾向と最短消失期間の観察

○畠中 周作¹⁾、宮下 拓也¹⁾、落合 雄一郎²⁾、高井 直史²⁾、竹澤 英利¹⁾、酒井 文一¹⁾

¹⁾北山ラベス株式会社箕輪生産場、²⁾北山ラベス株式会社事業部

P-136 NZW、JWおよびDutchウサギの成長に伴う眼圧及び視神経乳頭の変化

○上島 和己¹⁾、竹入 正和²⁾、落合 雄一郎¹⁾、高井 直史¹⁾、酒井 一彦²⁾

¹⁾北山ラベス株式会社事業部、²⁾北山ラベス株式会社伊那生産場

P-137 Establishment of experimental model of ovalbumin induced atopic dermatitis in Canine

Ha-Young Shin^{1,3)}, Su-Cheol Han²⁾, Hyung-Woo Bai^{2,3)}, Hong-Ki Lee^{2,3)}, Sung-Wook Chae²⁾,
Kon-Young Ji²⁾, Hyeon-Hwa Nam²⁾, Yu Gyeong Lee²⁾, Seo-Yeong Yu³⁾, ○Jeong Ho Hwang^{1,2)}

¹⁾Animal Model Research Group, Jeonbuk Branch Institute, Korea Institute of Toxicology,

²⁾Companion Animal New Drug Development Center, Korea Institute of Toxicology,

³⁾Center for Animal Medicine and Foods, Korea Institute of Toxicology